

第4編 男女共同参画に関する大学生意識調査

I 調査方法

調査対象：大東市内に所在する大学の学生

有効回収数：122人（女性84人 男性23人、無回答15人）

実施期間：令和4年11月～12月

II 調査結果のまとめ（集計・分析）

1. あなた自身について

- ・女性7割、男性2割で女性の比率が高くなっています。

2. 男女平等と性別役割分担意識について

（男女平等の意識）

- ・性別に関わらず、5割以上が平等としている項目は「職場（アルバイトを含む）」、「自治会等の地域活動」、「学校・教育の場」の3分野のみとなっています。
- ・性別に関わらず、平等が5割未満の項目は、「家庭生活の場」、「政治・経済活動への参画」、「法律や制度」、「社会通念・慣習やしきたり」「社会全体」となっています。

（家庭での男女の役割分担）

- ・「男は仕事、女は家庭」という考え方については、性別に関わらず、否定的にとらえている割合が高くなっています。
- ・現状、家事の分担については、「ほとんど母親」の割合が最も高く、次いで「どちらかといえば母親」となっています。「母親と父親同じくらい」の割合は低くなっており、家庭での男女共同参画は進んでいないことがうかがえます。

（家庭・育児の役割分担）

- ・性別に関わらず、「夫婦で同じ程度の割合」の割合が高くなっていますが、女性の2割が「妻」と回答しています。

（家事・育児の分担－①きっかけとなった人物）

- ・性別に関わらず、「母」が最も高くなっています。「父」の割合は、男性より女性の方が高くなっています。

（仕事の分担）

- ・性別に関わらず、「夫婦で同じ程度の割合」が最も高く、次いで「どちらかと言えば夫」、「主に夫」となっています。

（仕事の分担－①きっかけとなった人物）

- ・性別に関わらず、「母」が最も高くなっています。

(介護の分担)

- ・将来の介護の分担は、「夫婦で同じ程度の割合」が最も高くなっています。

(介護の分担－①きっかけとなった人物)

- ・女性は「母」の割合が、男性は「その他の人」の割合が最も高くなっています。

(仕事選択で重視する点)

- ・仕事を選ぶときに重視することは、女性は「職場の雰囲気がよいこと」、「収入が安定していること」の割合が高くなっています。男性は「収入が安定していること」、「職場の雰囲気がよいこと」の割合が高くなっています。また、女性は「育児や介護に対しての支援制度が整っていること」に1割が関心がありますが、男性の関心は低くなっています。

(女性が仕事をする事)

- ・女性が仕事をする事に対して、「結婚や出産などで職業をやめても、再び職業を持つほうがよい」が女性4割となっていますが、男性は3割となっています。「女性の思うとおりにするのがよい」は男女とも5割となっています。女性が仕事をする事を否定する意見はほとんどありません。

(女性が仕事をする事－①肯定的回答の理由)

- ・性別に関わらず、「夫婦で働いた方が多くの収入を得られるから」が最も高くなっています。

(育児休業の取得)

- ・性別に関わらず、「取得したい」の割合が高くなっています。前回調査と比較すると「取得したい」の割合が増加しています。

3. デートDVについて

- ・「デートDV」の認知率は、性別に関わらず高くなっており、前回調査と比較すると、「知っている」の割合が増加しています。一方、「知らない」との意見が1割程度あります。
- ・恋人との関係について、男性で「思いどおりにならない」「束縛されている」と感じている割合が高くなっており、優位性については女性の割合が高い結果となっています。
- ・本人との間で起こることについて、デートDVと判断した割合が男女とも7割以上の項目は、「携帯番号を勝手に見たり友だちの番号やアドレスを消す」、「デート代をいつもすべて払わせる」、「家族や友だちとのつきあいや連絡を監視したり制限する」、「いやらしい雑誌や映像を同意なく一方的に見せる」、「キスや性的な行為を同意なく一方的にする」、「性的な画像や動画などを勝手に撮ったりSNSなどに載せたりする」、「大声でどなる」など多数あり、認識の高さが伺えます。一方で、「自分を常に優先してほしいと言う」、「こんな服を着て」と服装などのチェックや指示をする」、などの自己中心的な事柄については、デートDVとしての認識が低くなっています。
- ・相手にされた経験については、各項目で3割未満となっていますが、「自分を常に優先してほしいと言う」、「しょっちゅう電話やメールをしてきたりどこで誰と会っているか繰り返

- し聞く」、「言う通りにしないとすぐに無視したり機嫌が悪くなる」は1割以上あります。
- ・相手にしたことがある経験については、性別に関わらず低くなっています。前回調査と比較すると、「経験がない」の割合が増加しています。
 - ・性別に関わらず、デートDVの経験者で「相談しなかった」の割合が最も高く、相談した者の男性の割合は、女性の半分以下となっています。性別に関わらず、相談相手は、「友人、知人、近所の人」の割合が最も高くなっています。
 - ・相談しなかった理由として、性別に関わらず、「相談するほどたいしたことでもないと思った」、「自分に非があると思った」が最も高くなっています。次いで女性では「自分さえ我慢すればよいと思った」、男性では「自分に非があると思った」となっています。デートDVについて、人権侵害であることを正しく啓発していくことが必要です。

4. 用語について

(男女共同参画に関する言葉の認知率)

- ・「男女雇用機会均等法」、「育児・介護休業法」、「DV防止法」、「セクハラ（セクシュアルハラスメント）」、「マタハラ（マタニティ ハラスメント）」、「ジェンダー」、「LGBT（エルジービーティー）」、「ワークライフバランス」の認知率が高くなっています。
- ・「女子差別撤廃条約」、「女性活躍推進法」、は、性別に関わらず認知率が低くなっています。

(男女共同参画を推進するために必要なこと)

- ・性別に関わらず、「子どものころから家庭で「男だから～」「女だから～」といった性別による固定観念をイメージさせるような言葉をかけないようにする」の割合が最も高くなっています。
- ・社会のあらゆる分野で男女共同参画を推進するためには、子どもの頃からの性別役割分担意識の解消、また長時間労働の是正など、仕事と家庭を両立できる就業環境の改善が必要とされています。また、今までの社会通念・慣習・しきたりを改めることも必要とされています。

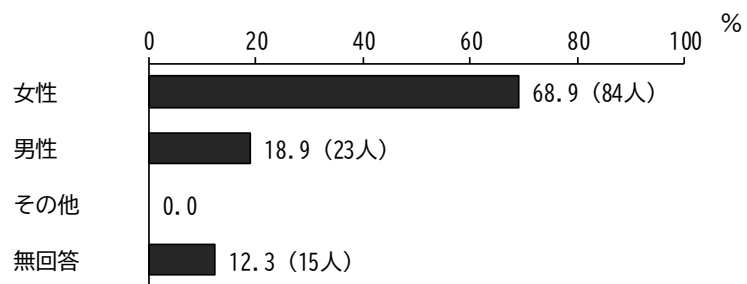
Ⅲ 調査結果

1 あなた自身について

問1 あなたの性別を記入してください。

「女性」の割合が68.9%、「男性」の割合が18.9%となっています。

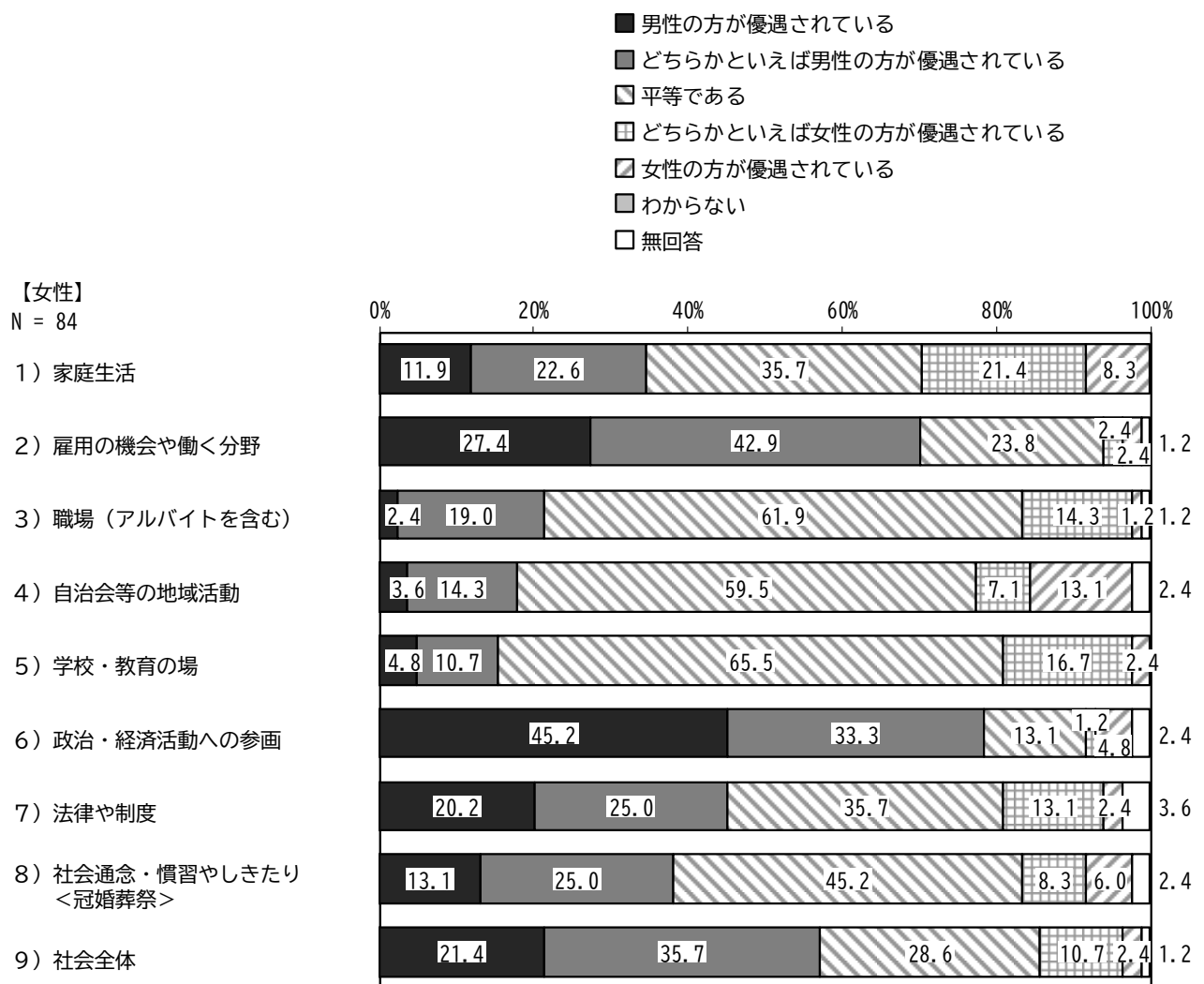
N = 122



2 男女平等と性別役割分担意識について

問2 次の各分野において、男女がどの程度、平等になっていると思われますか。（それぞれ○は1つずつ）

女性では『2) 雇用の機会や働く分野』、『6) 政治・経済活動への参画』で「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた“男性優遇”の割合が高くなっています。また、『3) 職場（アルバイトを含む）』、『4) 自治会等の地域活動』、『5) 学校・教育の場』で「平等である」の割合が高くなっています。

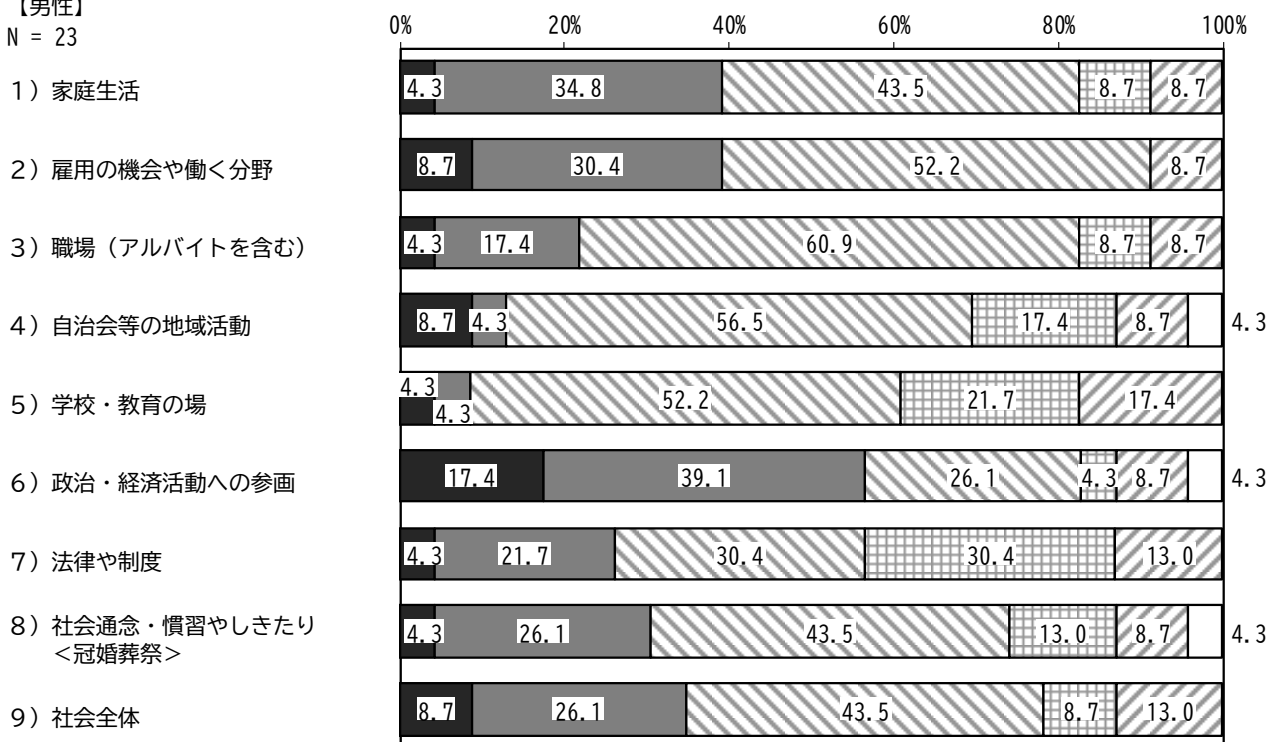


男性では『6) 政治・経済活動への参画』で“男性優遇”の割合が高くなっています。また、『3) 職場（アルバイトを含む）』で「平等である」の割合が高くなっています。

- 男性の方が優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▨ 平等である
- ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▨ 女性の方が優遇されている
- わからない
- 無回答

【男性】

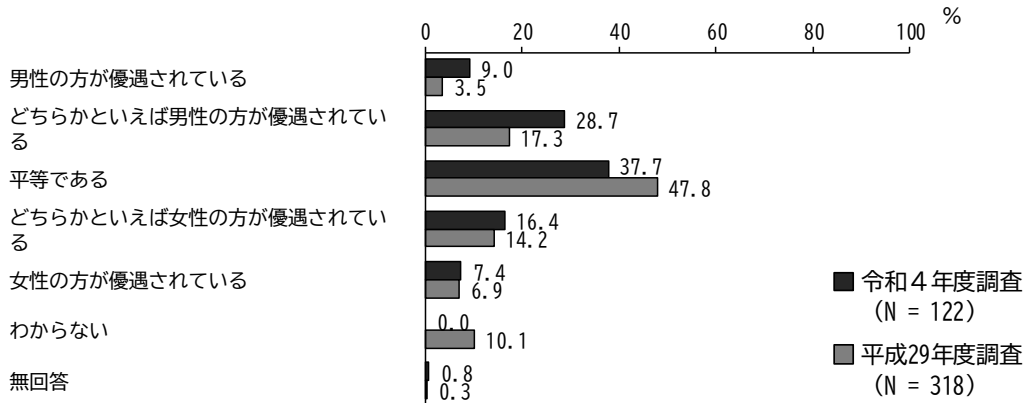
N = 23



1) 家庭生活

「平等である」の割合が 37.7%と最も高く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が 28.7%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の割合が 16.4%となっています。

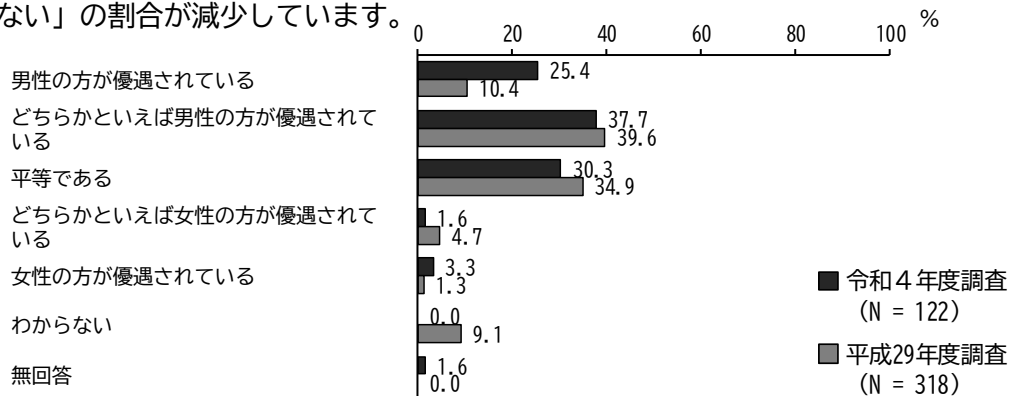
平成 29 年度調査と比較すると、「男性の方が優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が増加しています。一方、「平等である」、「わからない」の割合が減少しています。



2) 雇用の機会や働く分野

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が 37.7%と最も高く、次いで「平等である」の割合が 30.3%、「男性の方が優遇されている」の割合が 25.4%となっています。

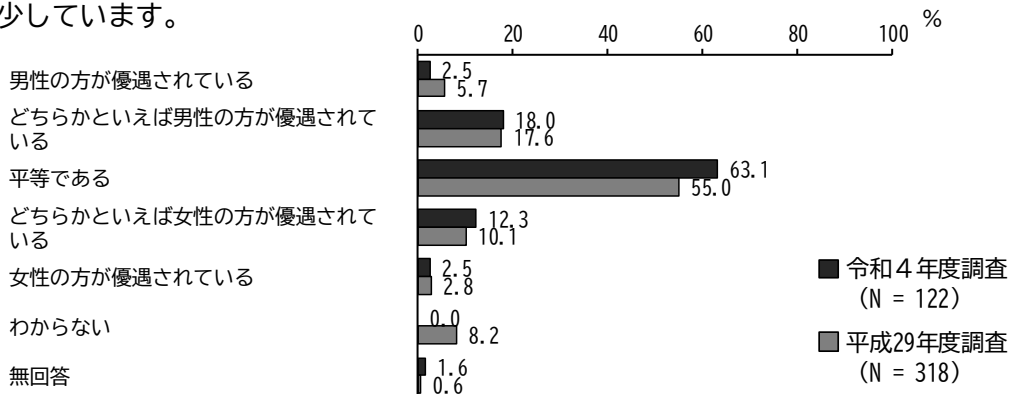
平成 29 年度調査と比較すると、「男性の方が優遇されている」の割合が増加しています。一方、「わからない」の割合が減少しています。



3) 職場（アルバイトを含む）

「平等である」の割合が 63.1%と最も高く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が 18.0%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の割合が 12.3%となっています。

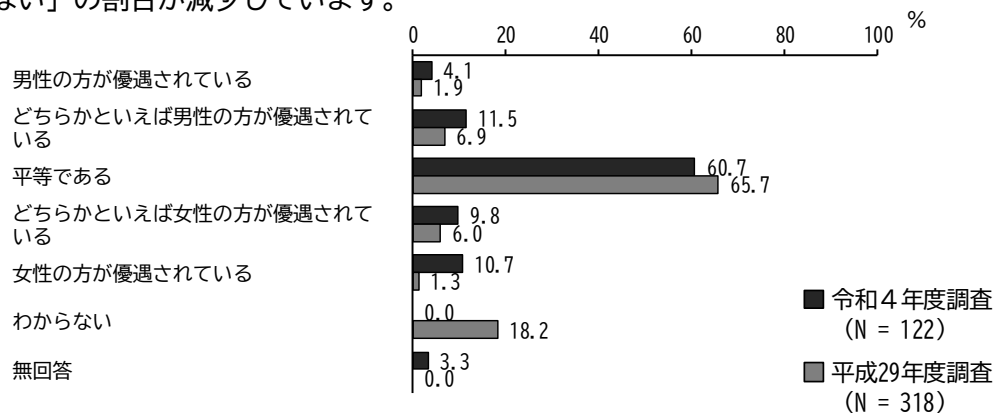
平成 29 年度調査と比較すると、「平等である」の割合が増加しています。一方、「わからない」の割合が減少しています。



4) 自治会等の地域活動

「平等である」の割合が 60.7%と最も高く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が 11.5%、「女性の方が優遇されている」の割合が 10.7%となっています。

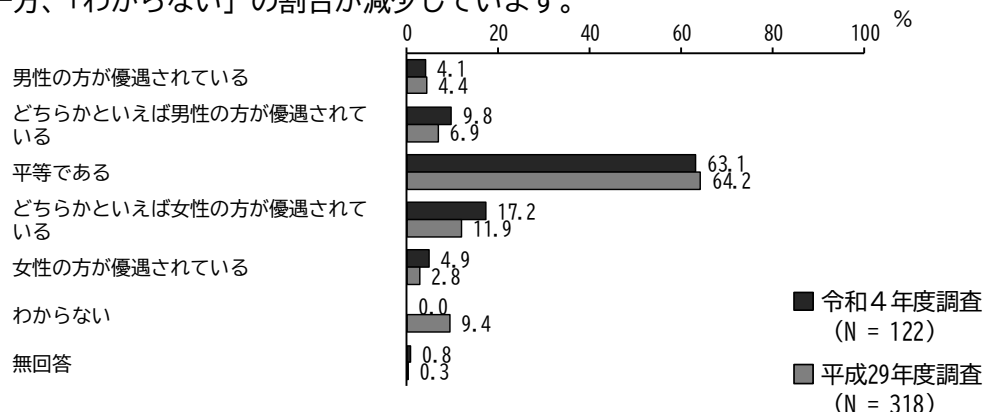
平成 29 年度調査と比較すると、「女性の方が優遇されている」の割合が増加しています。一方、「わからない」の割合が減少しています。



5) 学校・教育の場

「平等である」の割合が 63.1%と最も高く、次いで「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の割合が 17.2%となっています。

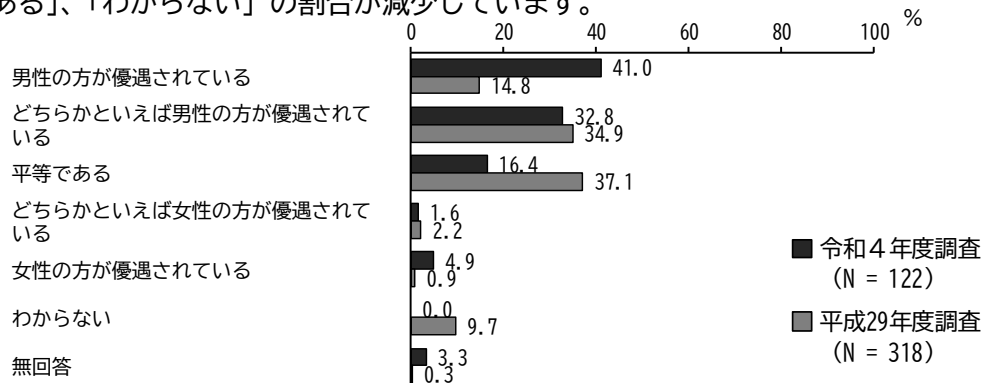
平成 29 年度調査と比較すると、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の割合が増加しています。一方、「わからない」の割合が減少しています。



6) 政治・経済活動への参画

「男性の方が優遇されている」の割合が 41.0%と最も高く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が 32.8%、「平等である」の割合が 16.4%となっています。

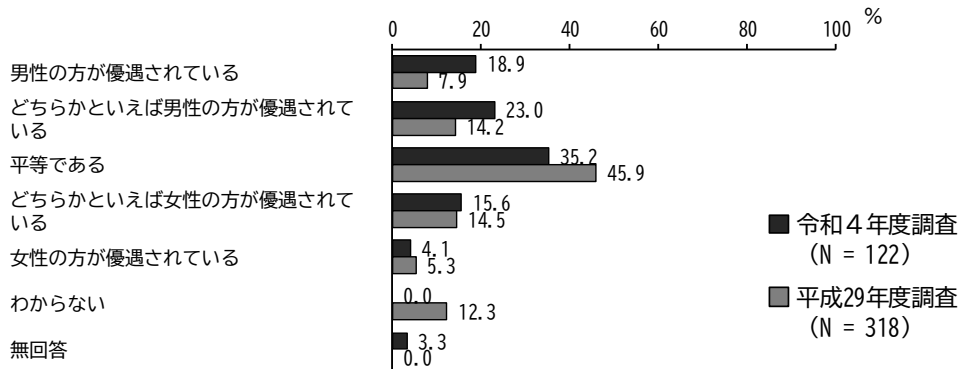
平成 29 年度調査と比較すると、「男性の方が優遇されている」の割合が増加しています。一方、「平等である」、「わからない」の割合が減少しています。



7) 法律や制度

「平等である」の割合が 35.2%と最も高く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が 23.0%、「男性の方が優遇されている」の割合が 18.9%となっています。

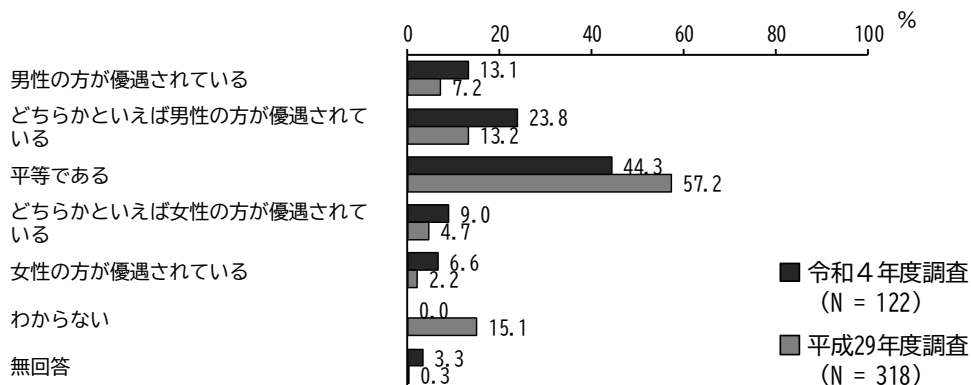
平成 29 年度調査と比較すると、「男性の方が優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が増加しています。一方、「平等である」、「わからない」の割合が減少しています。



8) 社会通念・慣習やしきたり<冠婚葬祭>

「平等である」の割合が 44.3%と最も高く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が 23.8%、「男性の方が優遇されている」の割合が 13.1%となっています。

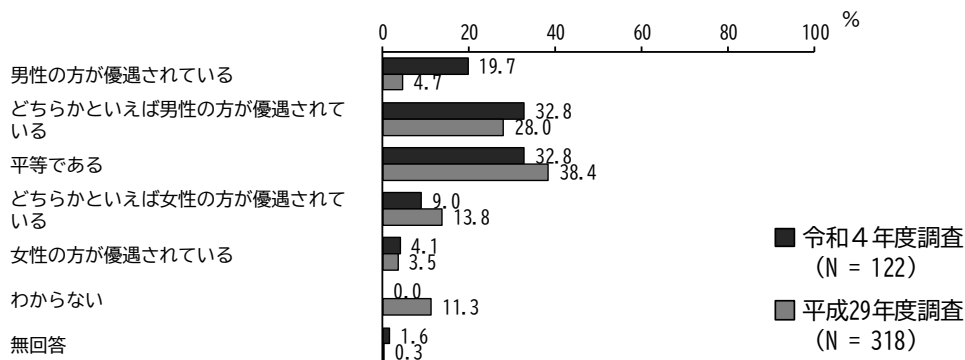
平成 29 年度調査と比較すると、「男性の方が優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が増加しています。一方、「平等である」、「わからない」の割合が減少しています。



9) 社会全体

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」、「平等である」の割合が 32.8%と最も高く、次いで「男性の方が優遇されている」の割合が 19.7%となっています。

平成 29 年度調査と比較すると、「男性の方が優遇されている」の割合が増加しています。一方、「平等である」「わからない」の割合が減少しています。

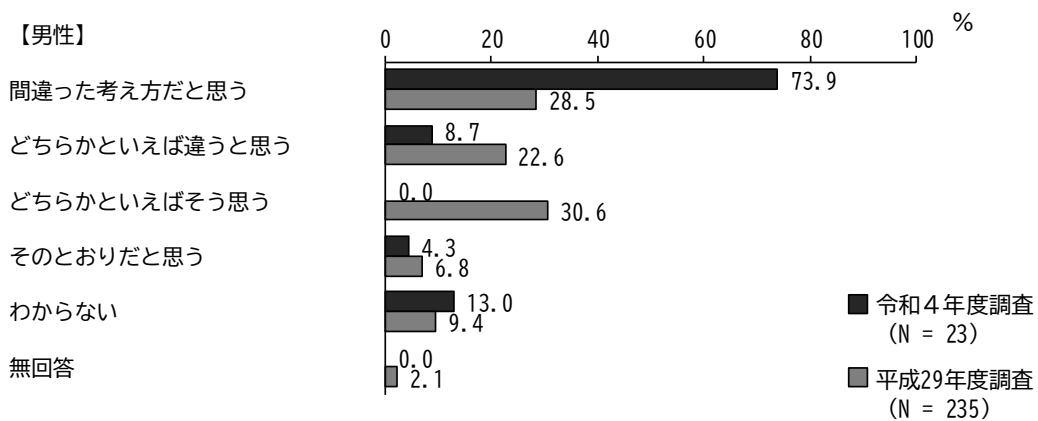
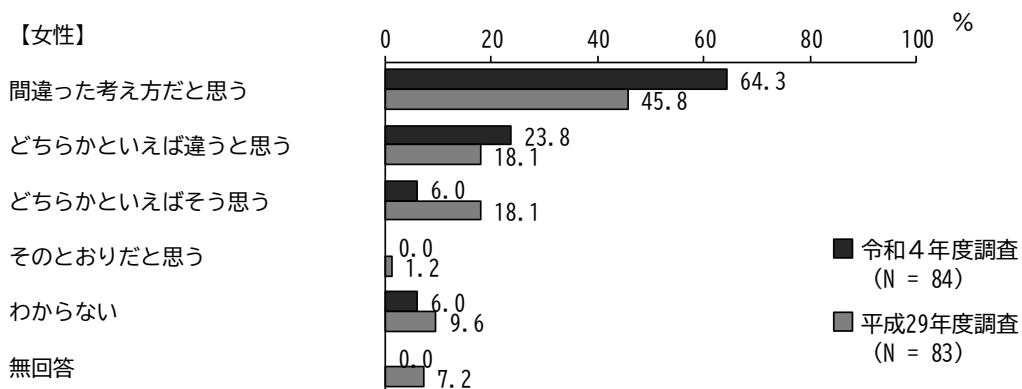


問3 「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担の考え方について、あなた自身はどう思いますか。(あてはまるもの1つに○)

女性では、「間違った考え方だと思う」の割合が64.3%と最も高く、次いで「どちらかといえば違うと思う」の割合が23.8%となっています。

男性では、「間違った考え方だと思う」の割合が73.9%と最も高く、次いで「わからない」の割合が13.0%となっています。

平成29年度調査と比較すると、女性は「間違った考え方だと思う」、「どちらかといえば違うと思う」の割合が増加しています。一方、「どちらかといえばそう思う」の割合が減少しています。男性は「間違った考え方だと思う」の割合が増加しています。一方、「どちらかといえば違うと思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が減少しています。



問3-① 【問3で、「1. 間違っただ考え方だと思う」「2. どちらかといえば違うと思う」と答えた人にお聞きします。】

特にそう思う理由はなんですか。(特にあてはまるもの3つにまでに○)

女性では、「固定的な男性と女性の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」の割合が82.4%と最も高く、次いで「男女平等に反すると思うから」の割合が35.1%、「自分の両親もともに働いていたから」の割合が31.1%となっています。

男性では、「固定的な男性と女性の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」の割合が84.2%と最も高く、次いで「男性も女性も働いた方が多くの収入を得られるから」の割合が52.6%、「男女平等に反すると思うから」の割合が36.8%となっています。

単位：%

区分	N (件)	固定的な男性と女性の役割分担の意識を押しつけるべきではないから	女性が働いて能力を發揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから	男性も女性も働いた方が、多くの収入を得られると思うから	男女平等に反すると思うから	家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは可能だと思うから	自分の両親もともに働いていたから	その他	わからない	無回答
全体	107	83.2	12.1	23.4	36.4	12.1	27.1	4.7	—	1.9
女性	74	82.4	10.8	20.3	35.1	13.5	31.1	5.4	—	2.7
男性	19	84.2	15.8	52.6	36.8	5.3	10.5	—	—	—

大学生 問3-① その他回答

できる人がする。性別は関係ない

そもそも考え方が古い。男性だろうが女性だろうがやりがいを感じたのであれば、家事育児やるのもよし仕事やるのもよしだと私は思う。このような考え方が今でも減らないのは、虐待や貧困問題を解決しようとせず行動に起こせない政府や収入面に差をつけ働きにくい環境をつくる国が問題。

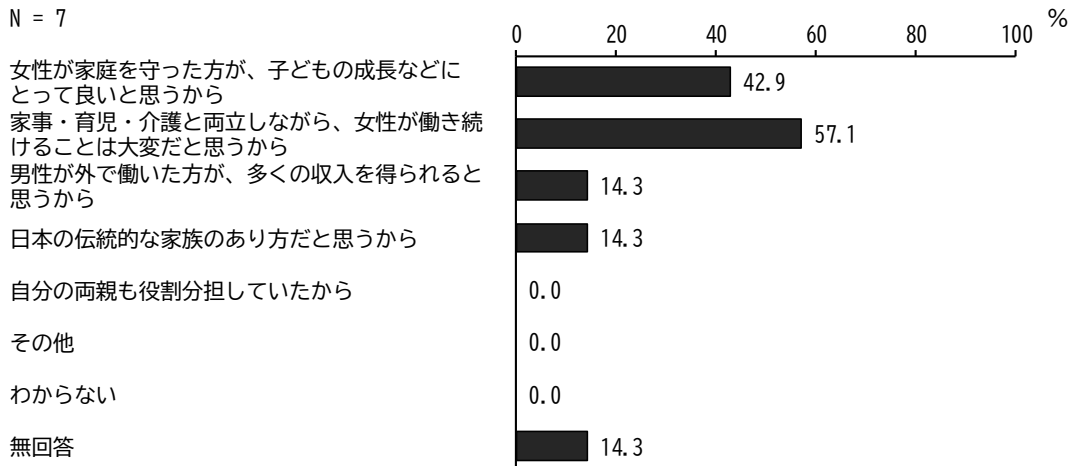
男性も家事をするべきであり、女性も仕事をするべきであると考えのため。

その他2件

問3-② 【問3で、「3. どちらかといえばそう思う」「4. そのとおりだと思う」と答えた人にお聞きします。】

特にそう思う理由はなんですか。(特にあてはまるもの3つにまでに○)

「家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは大変だと思うから」が4件となっています。「女性が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が3件、「男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」、「日本の伝統的な家族のあり方だと思うから」が1件となっています。



問4 あなたの実家では、食事の準備（料理）や、そうじ洗たくのような家事は、主に誰がやっていますか。(○は1つ)

女性では、「ほとんど母親」の割合が78.6%と最も高く、次いで「母親と父親同じくらい」の割合が9.5%となっています。

男性では、「ほとんど母親」の割合が60.9%と最も高く、次いで「どちらかといえば母親」の割合が21.7%、「母親と父親同じくらい」の割合が13.0%となっています。

単位：%

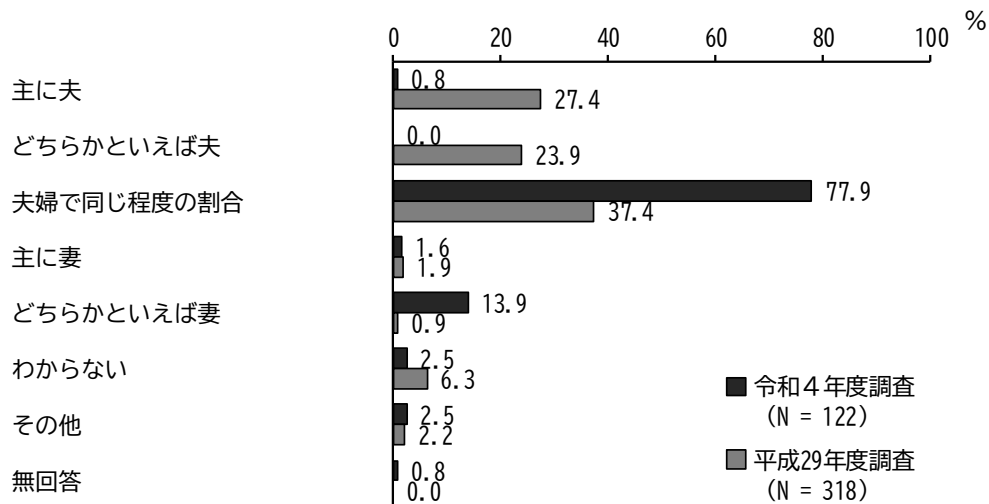
区分	N (件)	ほとんど母親	どちらかといえば母親	どちらかといえば父親	ほとんど父親	母親と父親同じくらい	その他の人	無回答
全体	122	73.8	10.7	0.8	1.6	10.7	1.6	0.8
女性	84	78.6	6.0	1.2	2.4	9.5	1.2	1.2
男性	23	60.9	21.7	—	—	13.0	4.3	—

問5 あなたが将来、家庭を持った場合、家事・育児は誰がすることが望ましいと思いますか。(あてはまるもの1つに○)

「夫婦で同じ程度の割合」の割合が 77.9%と最も高く、次いで「どちらかといえば妻」の割合が 13.9%となっています。

平成 29 年度調査と比較すると、「夫婦で同じ程度の割合」、「どちらかといえば妻」の割合が増加しています。一方、「主に夫」、「どちらかといえば夫」の割合が減少しています。

【経年】



【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「どちらかといえば妻」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	N (件)	主に夫	どちらかといえば夫	夫婦で同じ程度の割合	主に妻	どちらかといえば妻	わからない	その他	無回答
全体	122	0.8	—	77.9	1.6	13.9	2.5	2.5	0.8
女性	84	—	—	75.0	2.4	16.7	2.4	2.4	1.2
男性	23	—	—	87.0	—	4.3	4.3	4.3	—

大学生 問5 その他回答

得意なことを進んでして欲しい。役割分担。

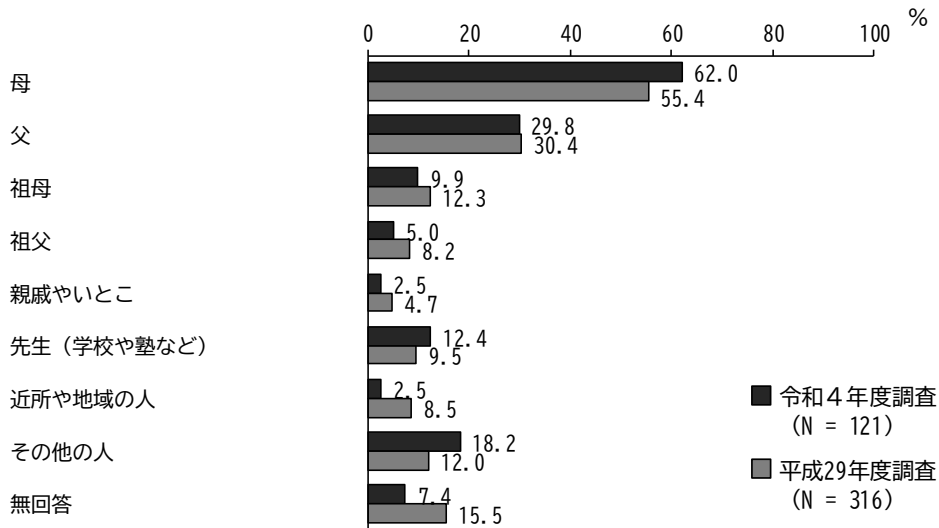
できる人がする。状況に合わせてお互いがお互いのために家事ができるように、家が回るようになってほしい。でも、おおまかにどっちがこれをやるとかは決めといてもいいかも。

問6 問5で回答された考え方のきっかけとなったのは、誰の言葉や行為ですか。(あてはまるものすべてに○)

「母」の割合が62.0%と最も高く、次いで「父」の割合が29.8%、「その他の人」の割合が18.2%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「母」、「その他の人」の割合が増加しています。一方、「近所や地域の人」の割合が減少しています。

【経年】



【性別】

性別で見ると、女性に比べ男性で「その他の人」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	N (件)	母	父	祖母	祖父	親戚やいとこ	先生 (学校や塾など)	近所や地域の人	その他の人	無回答
全体	121	62.0	29.8	9.9	5.0	2.5	12.4	2.5	18.2	7.4
女性	83	62.7	32.5	10.8	7.2	3.6	15.7	2.4	15.7	7.2
男性	23	56.5	17.4	4.3	-	-	-	4.3	34.8	-

大学生 問6 その他回答
インターネットでの体験談
彼女
保育学生をしていて、育児のワンオペの辛さを知っているから。夫も育児に参加して当たり前という認識があるから。
パートナー
友達やテレビなどを見てそう思った
ニュースなどで問題定義されており、自分で考えた

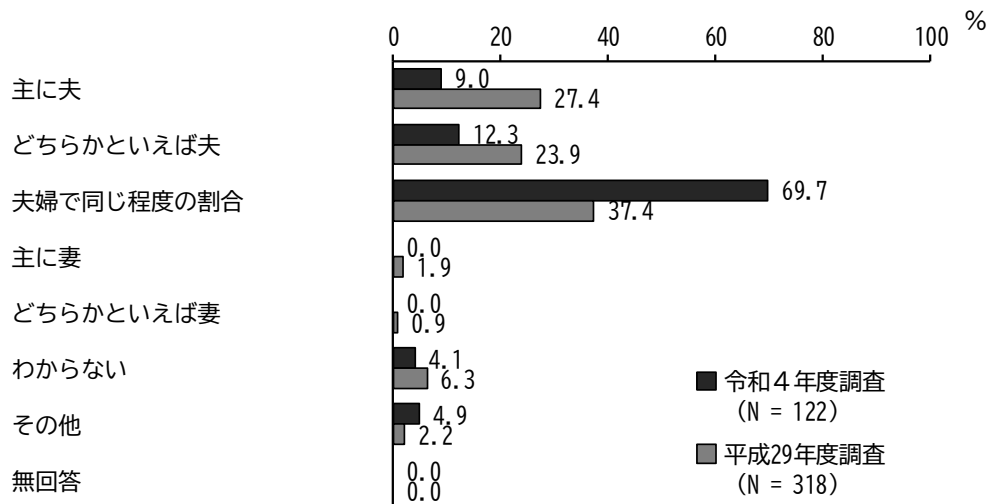
その他 11 件

問7 あなたが将来、家庭を持った場合、仕事は誰がすることが望ましいと思いますか。(あてはまるもの1つに○)

「夫婦で同じ程度の割合」の割合が 69.7%と最も高く、次いで「どちらかといえば夫」の割合が 12.3%となっています。

平成 29 年度調査と比較すると、「夫婦で同じ程度の割合」の割合が増加しています。一方、「主に夫」「どちらかといえば夫」の割合が減少しています。

【経年】



【性別】

性別で見ると、大きな差はみられません。

単位：%

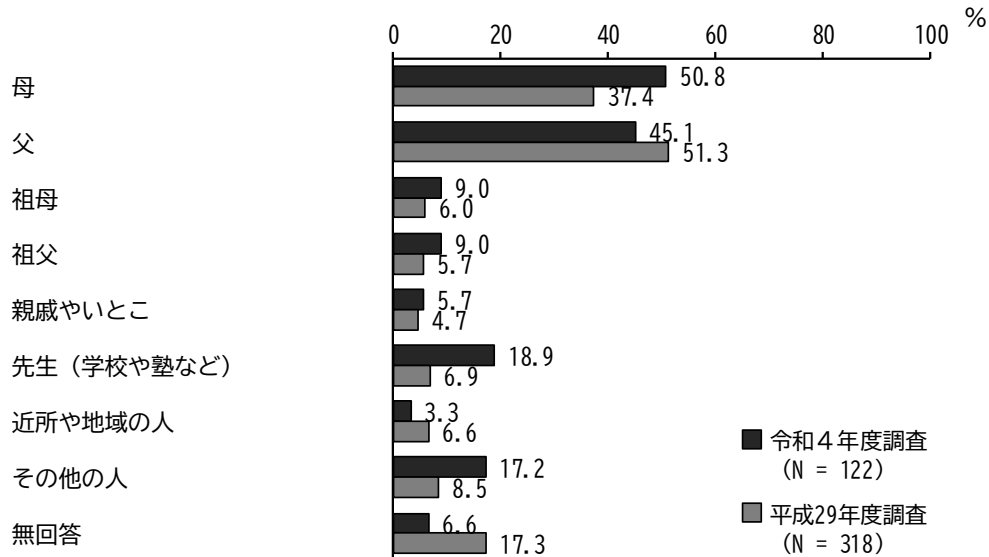
区分	N (件)	主に夫	どちらかといえば夫	夫婦で同じ程度の割合	主に妻	どちらかといえば妻	わからない	その他	無回答
全体	122	9.0	12.3	69.7	—	—	4.1	4.9	—
女性	84	10.7	10.7	70.2	—	—	4.8	3.6	—
男性	23	8.7	13.0	65.2	—	—	4.3	8.7	—

問8 問7で回答された考え方のきっかけとなったのは、誰の言葉や行為ですか。(あてはまるものすべてに○)

「母」の割合が50.8%と最も高く、次いで「父」の割合が45.1%、「先生（学校や塾など）」の割合が18.9%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「母」、「先生（学校や塾など）」、「その他の人」の割合が増加しています。一方、「父」の割合が減少しています。

【経年】



【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「その他の人」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	N (件)	母	父	祖母	祖父	親戚やいとこ	先生 (学校や塾など)	近所や地域の人	その他の人	無回答
全体	122	50.8	45.1	9.0	9.0	5.7	18.9	3.3	17.2	6.6
女性	84	54.8	47.6	13.1	11.9	7.1	20.2	2.4	14.3	6.0
男性	23	39.1	39.1	-	-	4.3	13.0	4.3	34.8	-

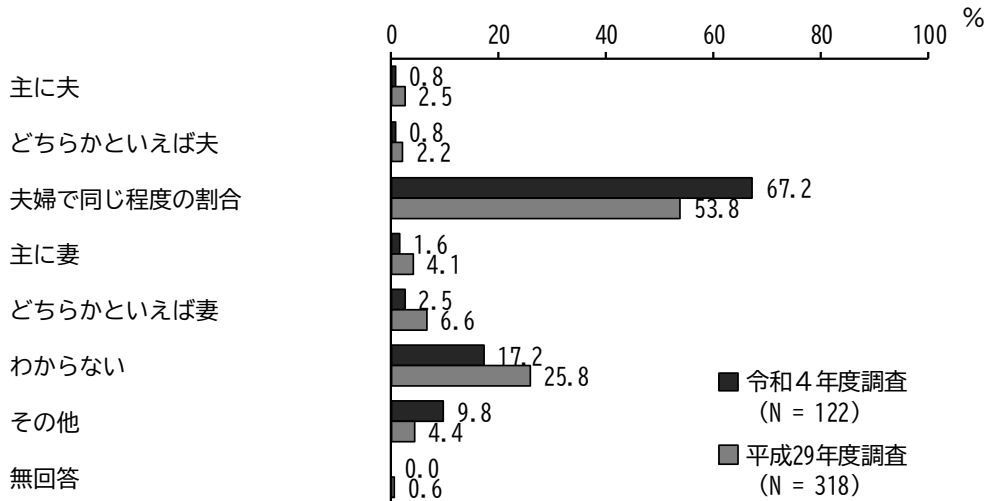
大学生 問8 その他回答
SNS
彼女
自分が好きな仕事に就いて働いてるんだから、仕事は誰がするのか望ましいかなんて誰が決めたんと思う。家庭を持ってなくても同じ考え。
世間体

問9 あなたが将来、家庭を持った場合、介護は誰がすることが望ましいと思いますか。(あてはまるもの1つに○)

「夫婦で同じ程度の割合」の割合が67.2%と最も高く、次いで「わからない」の割合が17.2%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「夫婦で同じ程度の割合」の割合が増加しています。一方、「わからない」の割合が減少しています。

【経年】



【性別】

性別で見ると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	N (件)	主に夫	どちらかといえば夫	夫婦で同じ程度の割合	主に妻	どちらかといえば妻	わからない	その他	無回答
全体	122	0.8	0.8	67.2	1.6	2.5	17.2	9.8	—
女性	84	—	1.2	67.9	1.2	2.4	19.0	8.3	—
男性	23	4.3	—	65.2	—	—	13.0	17.4	—

大学生 問9 その他回答

性別関係なく血のつながった家族

サービスを利用する

その時その時でできる人がやれば良い。または、介護される側がして欲しいと思う人。

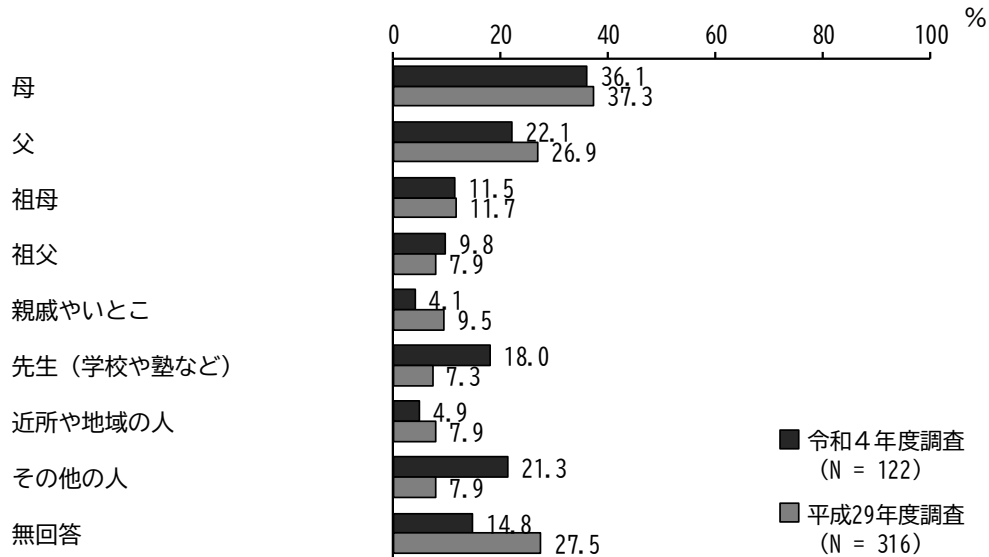
その他 10件

問10 問9で回答された考え方のきっかけとなったのは、誰の言葉や行為ですか。(あてはまるものすべてに○)

「母」の割合が36.1%と最も高く、次いで「父」の割合が22.1%、「その他の人」の割合が21.3%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「先生(学校や塾など)」、「その他の人」の割合が増加しています。一方、「親戚やいところ」の割合が減少しています。

【経年】



【性別】

性別で見ると、女性では「母」の割合が高く、男性では「その他の人」、「先生(学校や塾など)」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	N (件)	母	父	祖母	祖父	親戚やいところ	先生(学校や塾など)	近所や地域の人	その他の人	無回答
全体	122	36.1	22.1	11.5	9.8	4.1	18.0	4.9	21.3	14.8
女性	84	39.3	22.6	10.7	7.1	4.8	16.7	3.6	21.4	15.5
男性	23	21.7	17.4	8.7	13.0	4.3	26.1	13.0	30.4	—

大学生 問10 その他回答
インターネットや友人
ニュースなどを見た中での自分の考え
テレビの情報

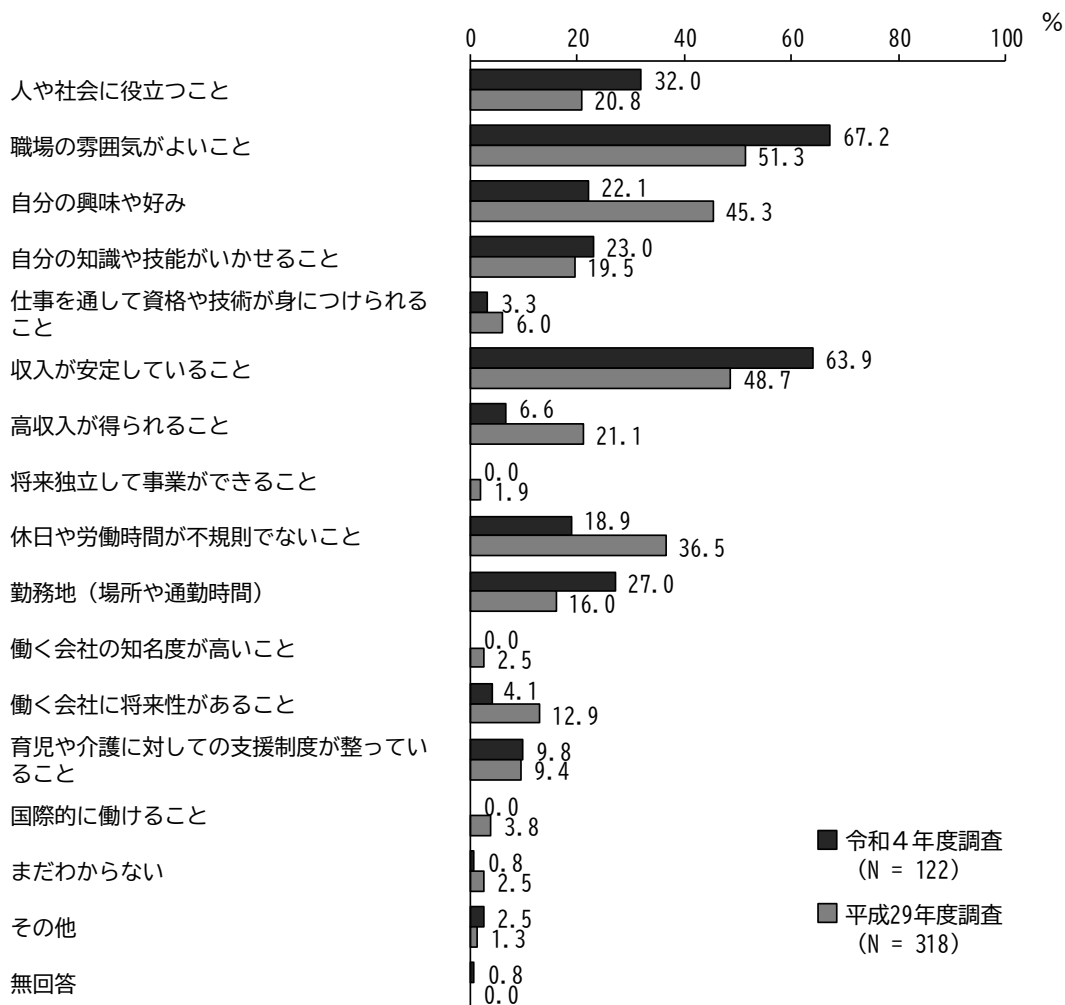
その他11件

問11 あなたが、仕事を選ぶときに重視することは何ですか。(あてはまるものに○は3つまで)

「職場の雰囲気がよいこと」の割合が67.2%と最も高く、次いで「収入が安定していること」の割合が63.9%、「人や社会に役立つこと」の割合が32.0%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「人や社会に役立つこと」、「職場の雰囲気がよいこと」、「収入が安定していること」、「勤務地(場所や通勤時間)」の割合が増加しています。一方、「自分の興味や好み」、「高収入が得られること」、「休日や労働時間が不規則でないこと」、「働く会社に将来性があること」の割合が減少しています。

【経年】



【性別】

性別に関わらず、「職場の雰囲気がよいこと」「収入が安定していること」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	N (件)	人や社会に役立つこと	職場の雰囲気がよいこと	自分の興味や好み	自分の知識や技能がいかせること	仕事を通して資格や技術が身につけられること	収入が安定していること	高収入が得られること	将来独立して事業がでかくなること
全体	122	32.0	67.2	22.1	23.0	3.3	63.9	6.6	-
女性	84	26.2	69.0	23.8	22.6	3.6	63.1	7.1	-
男性	23	34.8	69.6	21.7	26.1	-	69.6	8.7	-

区分	休日や労働時間が不規則でないこと	勤務地（場所や通勤時間）	働く会社の知名度が高いこと	働く会社に将来性があること	育児や介護に対する支援制度が整っていること	国際的に働けること	まだわからない	その他	無回答
全体	18.9	27.0	-	4.1	9.8	-	0.8	2.5	0.8
女性	21.4	27.4	-	4.8	11.9	-	-	2.4	1.2
男性	13.0	34.8	-	-	-	-	4.3	-	-

大学生 問 11 その他回答

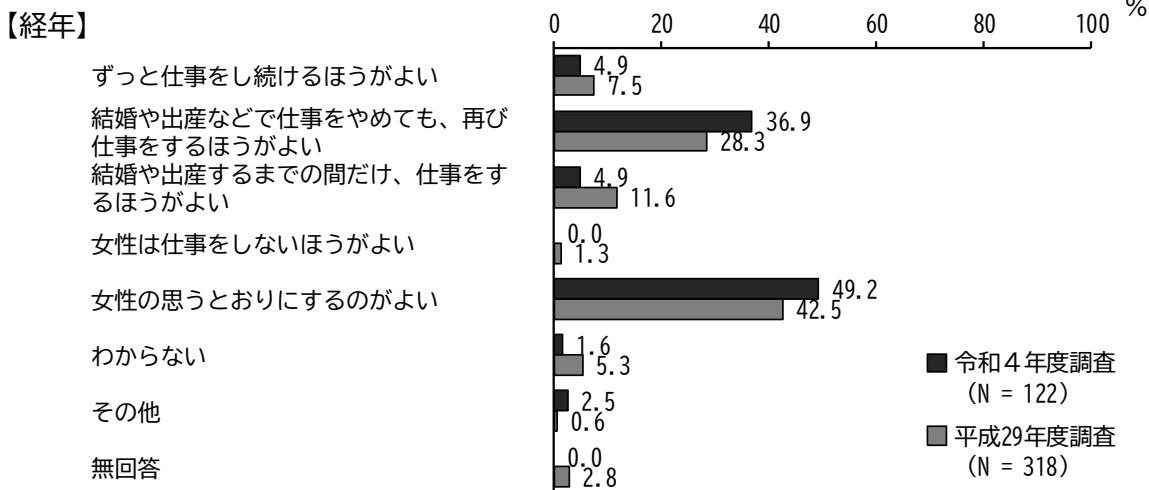
残業有無やチームワークの良さなど

その他2件

問12 女性が仕事をする事について、あなた自身はどのように考えますか。(あてはまるもの1つに○)

「女性の思うとおりにするのがよい」の割合が49.2%と最も高く、次いで「結婚や出産などで仕事をやめても、再び仕事をするほうがよい」の割合が36.9%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「結婚や出産などで仕事をやめても、再び仕事をするほうがよい」、「女性の思うとおりにするのがよい」の割合が増加しています。一方、「結婚や出産するまでの間だけ、仕事をするほうがよい」の割合が減少しています。



【性別】

性別で見ると、男性に比べ女性で「結婚や出産などで仕事をやめても、再び仕事をするほうがよい」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	N (件)	ずっと仕事をし続けるほうがよい	結婚や出産などで仕事をやめても、再び仕事をするほうがよい	結婚や出産するまでの間だけ、仕事をするほうがよい	女性は仕事をしないほうがよい	女性の思うとおりにするのがよい	わからない	その他	無回答
全体	122	4.9	36.9	4.9	—	49.2	1.6	2.5	—
女性	84	2.4	42.9	4.8	—	46.4	1.2	2.4	—
男性	23	8.7	26.1	4.3	—	52.2	4.3	4.3	—

大学生 問12 その他回答

結婚や出産で仕事を辞めなくてもよく、働き続けられる環境で働き続けるのがよい。

その家庭や状況によって自由に選択すればいい。

性別で決めると言うよりは、その人個人がどう思うかで決めるべきだと思う

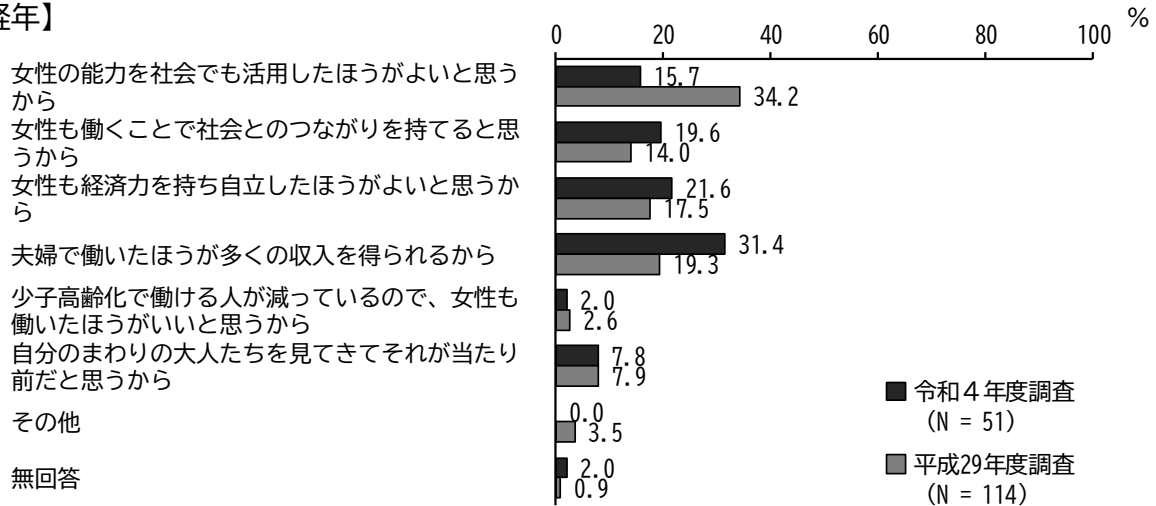
問12-① 【問12で、「1. ずっと仕事をし続けるほうがよい」「2. 結婚や出産などで仕事をやめても、再び仕事をするほうがよい」と答えた人にお聞きします。】

それはどのような理由からですか。(あてはまるもの1つに○)

「夫婦で働いたほうが多くの収入を得られるから」の割合が31.4%と最も高く、次いで「女性も経済力を持ち自立したほうがよいと思うから」の割合が21.6%、「女性も働くことで社会とのつながりを持てると思うから」の割合が19.6%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「女性も働くことで社会とのつながりを持てると思うから」、「夫婦で働いたほうが多くの収入を得られるから」の割合が増加しています。一方、「女性の能力を社会でも活用したほうがよいと思うから」の割合が減少しています。

【経年】



【性別】

性別で見ると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	N (件)	女性の能力を社会でも活用したほうがよいと思うから	女性も働くことで社会とのつながりを持てると思うから	女性も経済力を持ち自立したほうがよいと思うから	夫婦で働いたほうが多くの収入を得られるから	少子高齢化で働ける人が減っているのに、女性も働いたほうがよいと思うから	自分のまわりの大人たちを見てきてそれが当たり前だと思うから	その他	無回答
全体	51	15.7	19.6	21.6	31.4	2.0	7.8	-	2.0
女性	38	18.4	21.1	18.4	28.9	2.6	10.5	-	-
男性	8	12.5	-	12.5	62.5	-	-	-	12.5

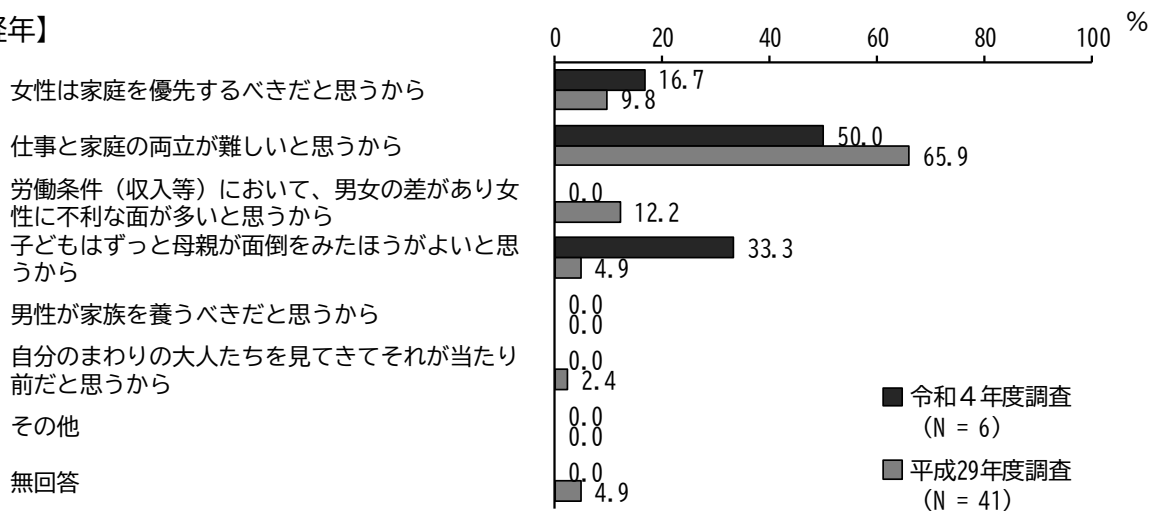
問12-② 【問12で、「3. 結婚や出産するまでの間だけ、仕事をするほうがよい」「4. 女性は仕事をしないほうがよい」と答えた人にお聞きします。】

それはどのような理由からですか。(あてはまるもの1つに○)

「仕事と家庭の両立が難しいと思うから」が3件となっています。「子どもはずっと母親が面倒をみたほうがよいと思うから」が2件、「女性は家庭を優先するべきだと思うから」が1件となっています。

平成29年度調査と比較すると、「女性は家庭を優先するべきだと思うから」、「子どもはずっと母親が面倒をみたほうがよいと思うから」の割合が増加しています。一方、「仕事と家庭の両立が難しいと思うから」、「労働条件(収入等)において、男女の差があり女性に不利な面が多いと思うから」の割合が減少しています。

【経年】



【性別】

性別で見ると、大きな差はみられません。

単位：%

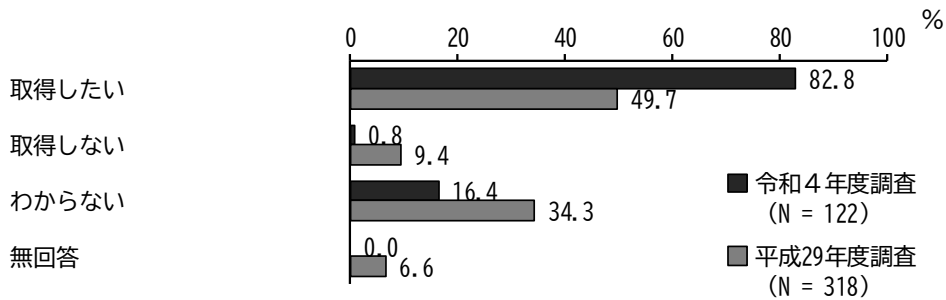
区分	N (件)	女性は家庭を優先するべきだと思うから	仕事と家庭の両立が難しいと思うから	労働条件(収入等)において、男女の差があり女性に不利な面が多いと思うから	子どもはずっと母親が面倒をみたほうがよいと思うから	男性が家族を養うべきだと思うから	自分のまわりの大人たちを見てきてそれが当たり前だと思うから	その他	無回答
全体	6	16.7	50.0	—	33.3	—	—	—	—
女性	4	25.0	50.0	—	25.0	—	—	—	—
男性	1	—	100.0	—	—	—	—	—	—

問13 あなたは将来育児休業を取得したいですか。(あてはまるもの1つに○)

「取得したい」の割合が82.8%と最も高く、次いで「わからない」の割合が16.4%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「取得したい」の割合が増加しています。一方、「取得しない」、「わからない」の割合が減少しています。

【経年】



【性別】

性別で見ると、女性に比べ男性で「わからない」の割合が高くなっています。

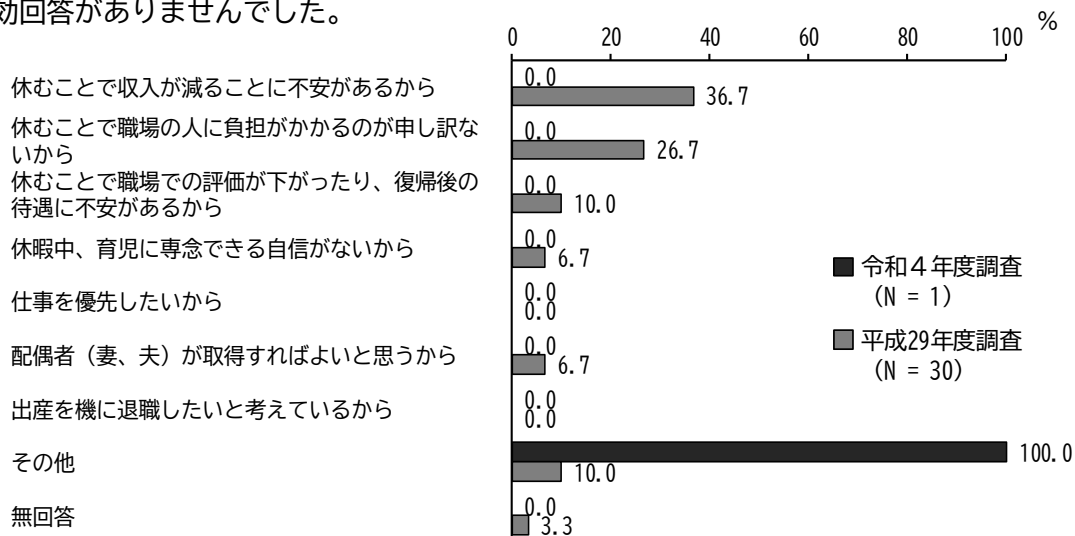
単位：%

区分	N (件)	取得したい	取得しない	わからない	無回答
全体	122	82.8	0.8	16.4	—
女性	84	84.5	1.2	14.3	—
男性	23	78.3	—	21.7	—

問13-① 【問13で、「2. 取得しない」と答えた人に聞きます。】

それはどのような理由からですか。(最もあてはまるもの1つに○)

有効回答がありませんでした。



大学生 問13-① その他回答

結婚願望がなく子供を産みたくないから

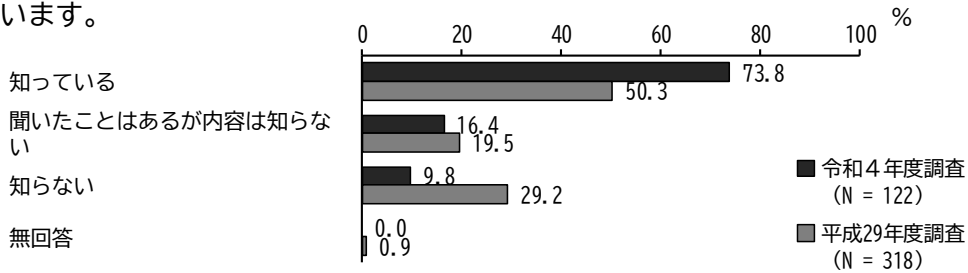
3 デートDVについて

問14 あなたは、「デートDV」について知っていますか。(あてはまるもの1つに○)

「知っている」の割合が73.8%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が16.4%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「知っている」の割合が増加しています。一方、「知らない」の割合が減少しています。

【経年】



【性別】

性別でみると、大きな差はみられません。

単位：%

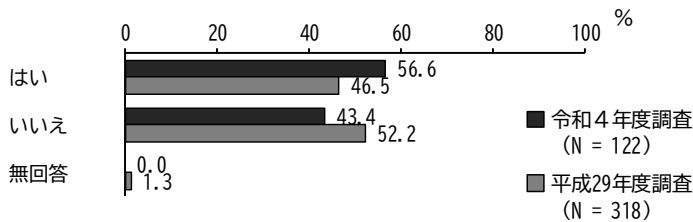
区分	N (件)	知っている	聞いたことはあるが内容は知らない	知らない	無回答
全体	122	73.8	16.4	9.8	—
女性	84	72.6	17.9	9.5	—
男性	23	73.9	17.4	8.7	—

問15 あなたは現在、恋人(交際相手)がいますか。または恋人(交際相手)がいましたか。(あてはまるもの1つに○)

「はい」の割合が56.6%、「いいえ」の割合が43.4%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「はい」の割合が増加しています。一方、「いいえ」の割合が減少しています。

【経年】



【性別】

性別でみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	N (件)	はい	いいえ	無回答
全体	122	56.6	43.4	—
女性	84	57.1	42.9	—
男性	23	56.5	43.5	—

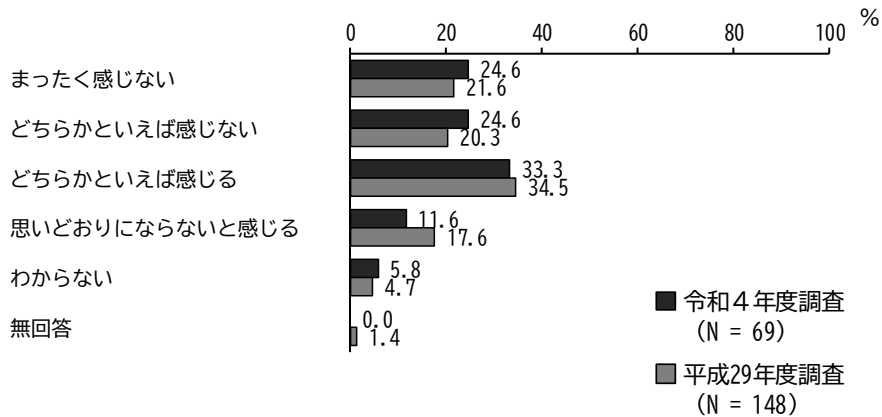
問15-① 【問15で、「1. はい」と答えた人に聞きます。】

あなたは、恋人との関係において、思いどおりにならないと感じることがありますか。またはありましたか。

「どちらかといえば感じる」の割合が33.3%と最も高く、次いで「まったく感じない」、「どちらかといえば感じない」の割合が24.6%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「思いどおりにならないと感じる」の割合が減少しています。

【経年】



【性別】

性別で見ると、女性に比べ男性で「思いどおりにならないと感じる」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	N (件)	まったく感じない	どちらかといえば感じない	どちらかといえば感じる	思いどおりにならないと感じる	わからない	無回答
全体	69	24.6	24.6	33.3	11.6	5.8	—
女性	48	27.1	22.9	35.4	8.3	6.3	—
男性	13	23.1	15.4	23.1	30.8	7.7	—

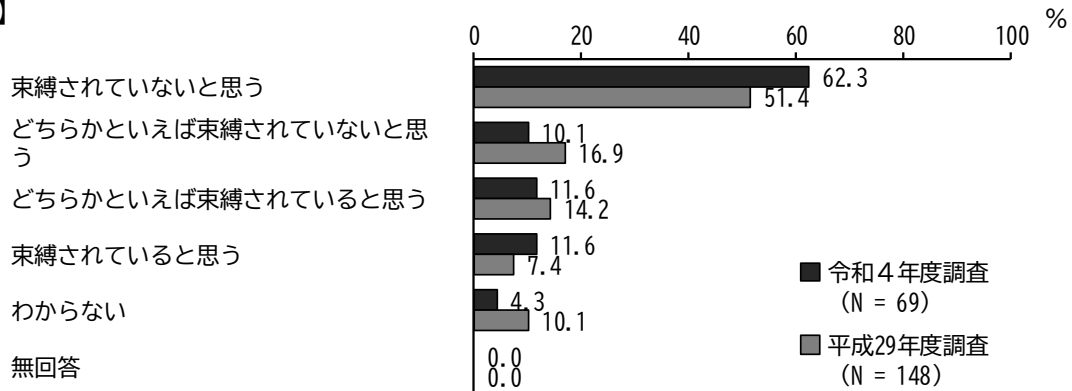
問15-② 【問15で、「1. はい」と答えた人に聞きます。】

あなたは、恋人に束縛されていると思いますか。または思いましたか。

「束縛されていないと思う」の割合が62.3%と最も高く、次いで「どちらかといえば束縛されていると思う」、「束縛されていると思う」の割合が11.6%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「束縛されていないと思う」の割合が増加しています。一方、「どちらかといえば束縛されていないと思う」、「わからない」の割合が減少しています。

【経年】



【性別】

性別で見ると、女性に比べ男性で「束縛されていると思う」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	N (件)	束縛されていないと思う	どちらかといえば束縛されていないと思う	どちらかといえば束縛されていると思う	束縛されていると思う	わからない	無回答
全体	69	62.3	10.1	11.6	11.6	4.3	—
女性	48	60.4	12.5	12.5	10.4	4.2	—
男性	13	53.8	7.7	15.4	23.1	—	—

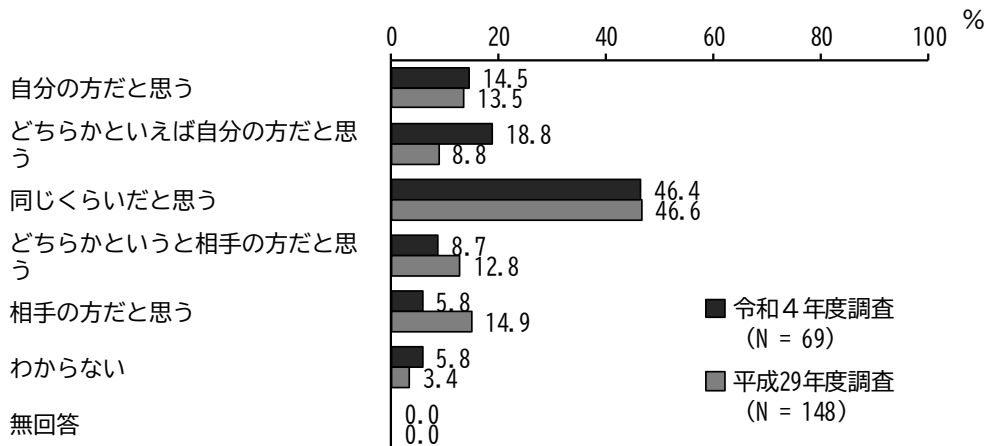
問15-③ 【問15で、「1. はい」と答えた人に聞きます。】

あなたと恋人との関係は、あなたの判断ではどちらが強い(優位である)と思いますか。または、思いましたか。

「同じくらいだと思う」の割合が46.4%と最も高く、次いで「どちらかといえば自分の方だと思う」の割合が18.8%、「自分の方だと思う」の割合が14.5%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「どちらかといえば自分の方だと思う」の割合が増加しています。一方、「相手の方だと思う」の割合が減少しています。

【経年】



【性別】

性別で見ると、女性では「自分の方だと思う」の割合が高く、男性では「同じくらいだと思う」の割合が高くなっています。

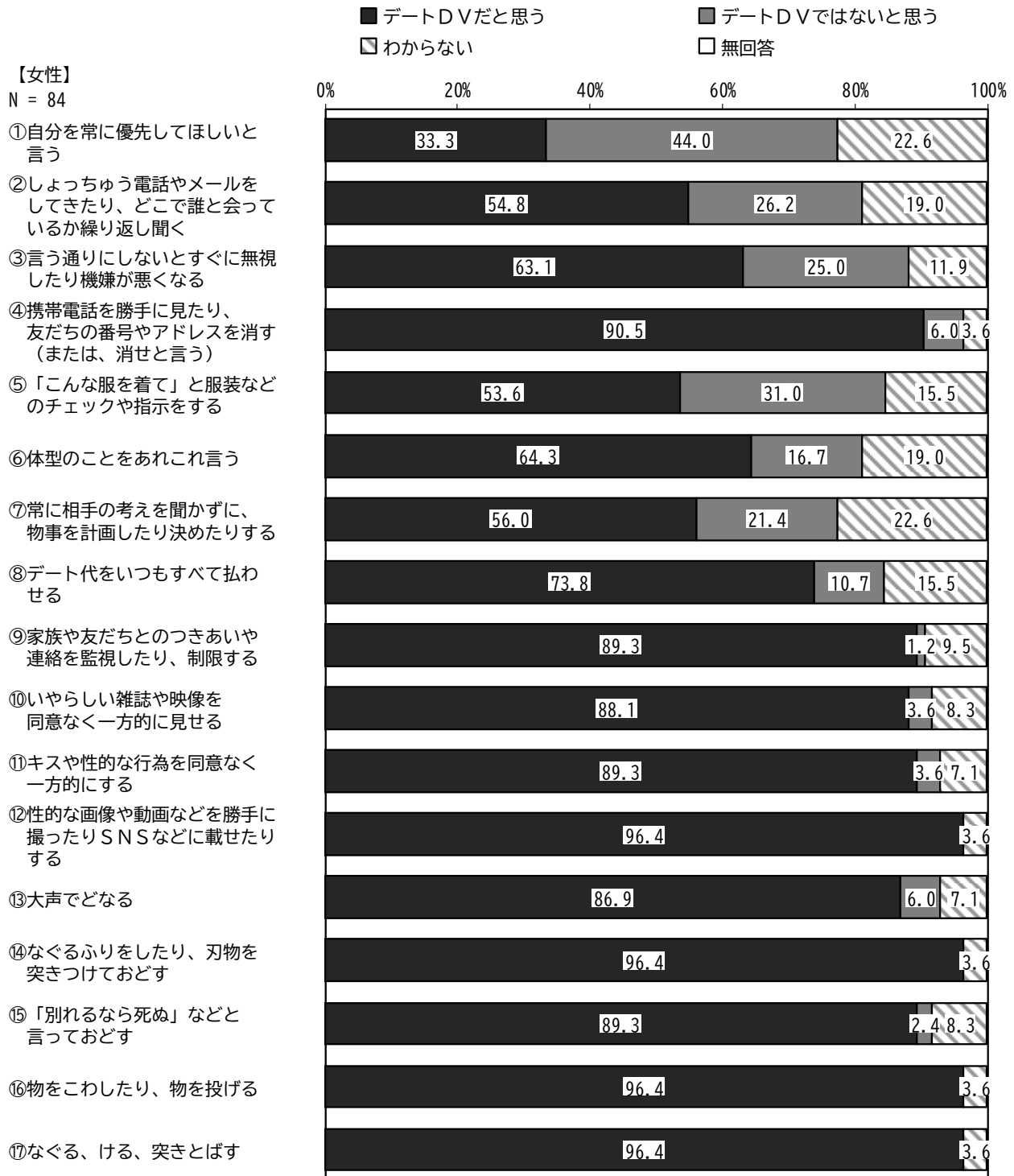
単位：%

区分	N (件)	自分の方だと思う	どちらかといえば自分の方だと思う	同じくらいだと思う	どちらかというと相手の方だと思う	相手の方だと思う	わからない	無回答
全体	69	14.5	18.8	46.4	8.7	5.8	5.8	—
女性	48	20.8	22.9	39.6	8.3	4.2	4.2	—
男性	13	—	7.7	69.2	7.7	7.7	7.7	—

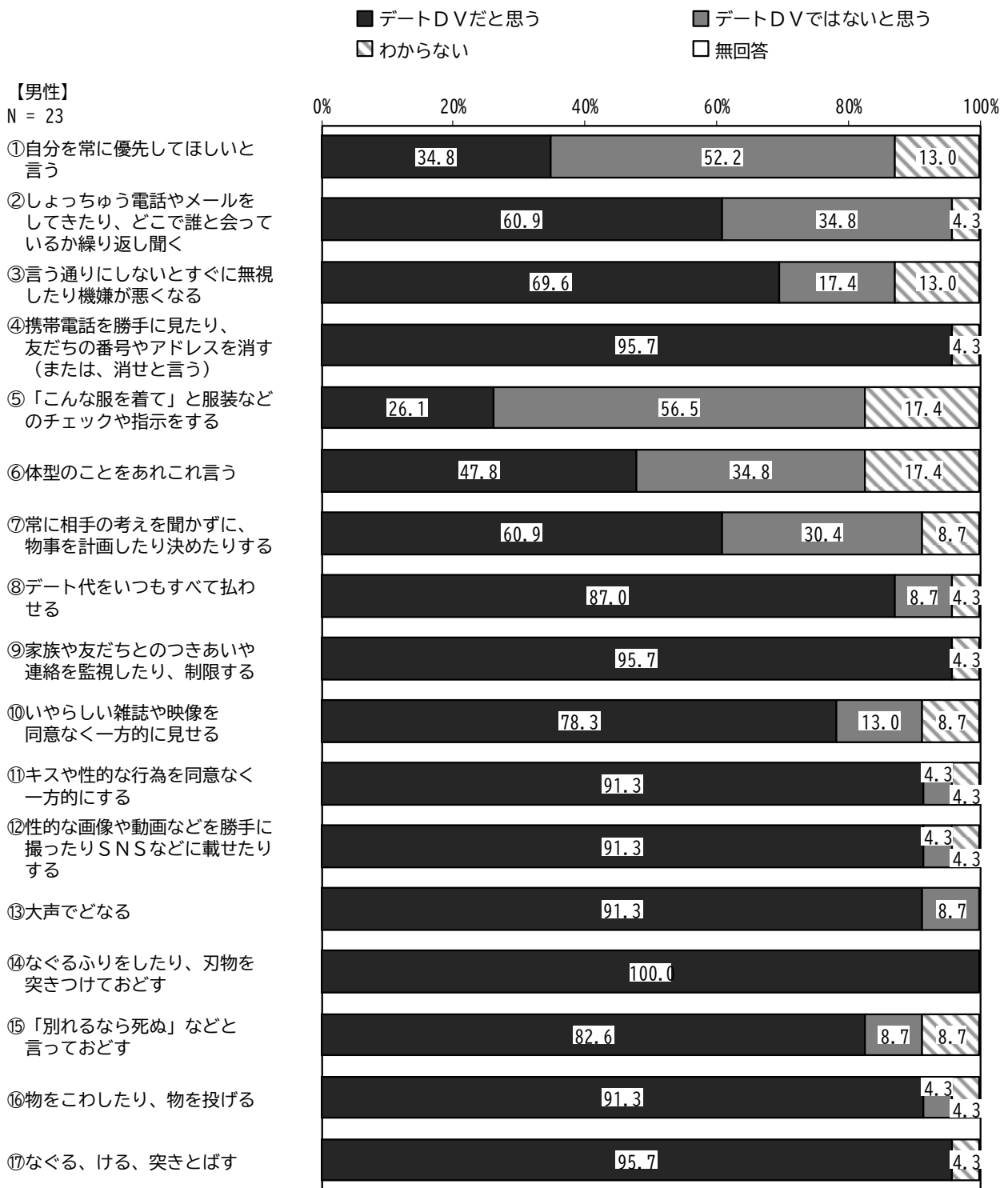
問16 恋人との間で次のようなことが行われた場合、あなたはどのように思いますか。また、次のようなことを実際に相手にしたり、された経験がありますか。

<どう思いますか>

女性では『⑫性的な画像や動画などを勝手に撮ったりSNSなどに載せたりする』、『⑭なぐるふりをしたり、刃物を突きつけておどす』、『⑯物をこわしたり、物を投げる』、『⑰なぐる、ける、突きとばす』で「デートDVだと思う」の割合が高くなっています。また、『①自分を常に優先してほしいと言う』で「デートDVではないと思う」の割合が高くなっています。



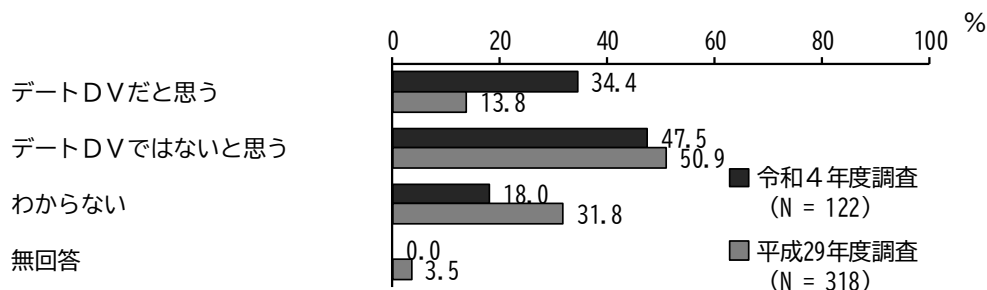
男性では『⑭なぐるふりをしたり、刃物を突きつけておどす』の割合が高くなっています。また、『⑤「こんな服を着て」と服装などのチェックや指示をする』で「デートDVではないと思う」の割合が高くなっています。



①自分を常に優先してほしいと言う

「デートDVではないと思う」の割合が47.5%と最も高く、次いで「デートDVだと思う」の割合が34.4%、「わからない」の割合が18.0%となっています。

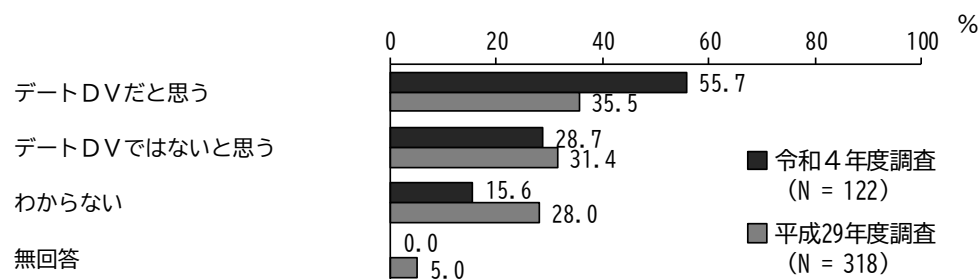
平成29年度調査と比較すると、「デートDVだと思う」の割合が増加しています。一方、「わからない」の割合が減少しています。



②しょっちゅう電話やメールをしてきたり、どこで誰と会っているか繰り返し聞く

「デートDVだと思う」の割合が55.7%と最も高く、次いで「デートDVではないと思う」の割合が28.7%、「わからない」の割合が15.6%となっています。

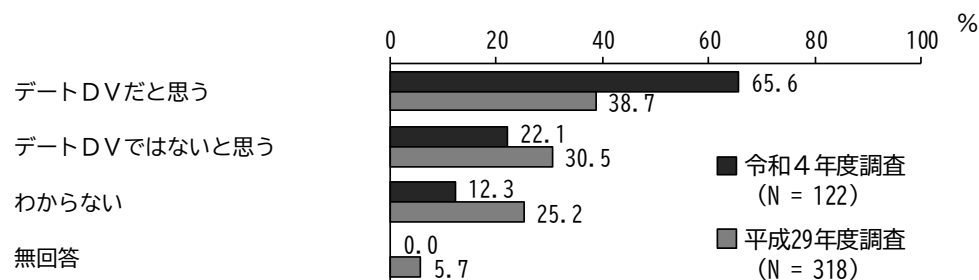
平成29年度調査と比較すると、「デートDVだと思う」の割合が増加しています。一方、「わからない」の割合が減少しています。



③言う通りにしないとすぐに無視したり機嫌が悪くなる

「デートDVだと思う」の割合が65.6%と最も高く、次いで「デートDVではないと思う」の割合が22.1%、「わからない」の割合が12.3%となっています。

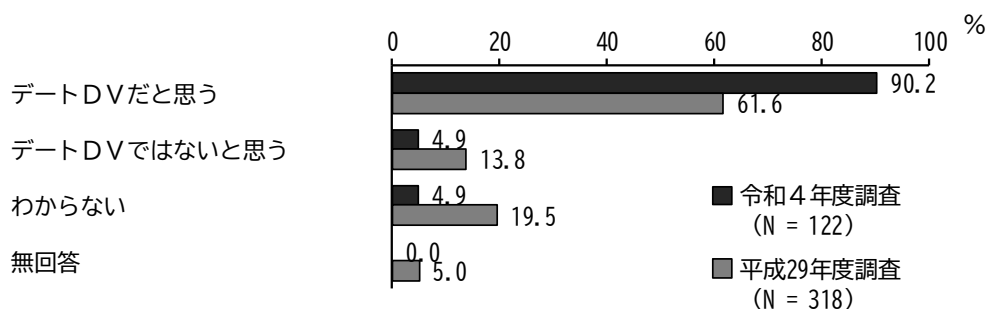
平成29年度調査と比較すると、「デートDVだと思う」の割合が増加しています。一方、「デートDVではないと思う」、「わからない」の割合が減少しています。



④携帯電話を勝手に見たり、友だちの番号やアドレスを消す（または、消せと言う）

「デートDVだと思う」の割合が90.2%と最も高くなっています。

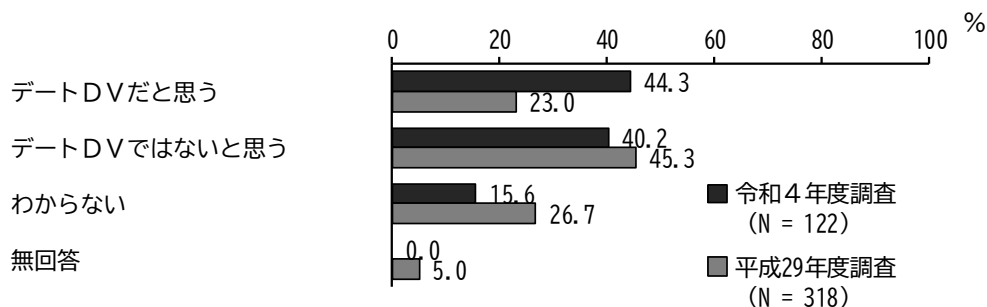
平成29年度調査と比較すると、「デートDVだと思う」の割合が増加しています。一方、「デートDVではないと思う」、「わからない」の割合が減少しています。



⑤「こんな服を着て」と服装などのチェックや指示をする

「デートDVだと思う」の割合が44.3%と最も高く、次いで「デートDVではないと思う」の割合が40.2%、「わからない」の割合が15.6%となっています。

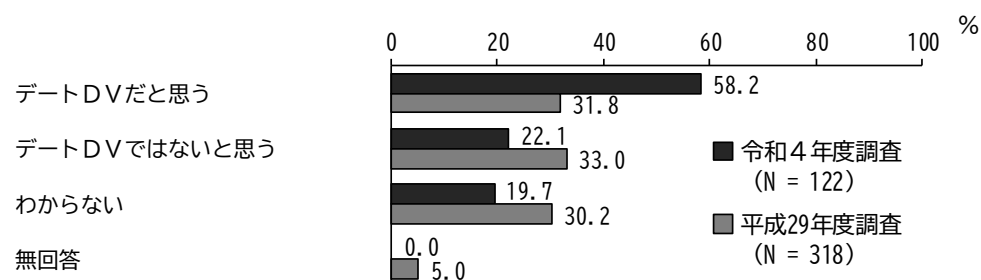
平成29年度調査と比較すると、「デートDVだと思う」の割合が増加しています。一方、「デートDVではないと思う」、「わからない」の割合が減少しています。



⑥体型のことをあれこれ言う

「デートDVだと思う」の割合が58.2%と最も高く、次いで「デートDVではないと思う」の割合が22.1%、「わからない」の割合が19.7%となっています。

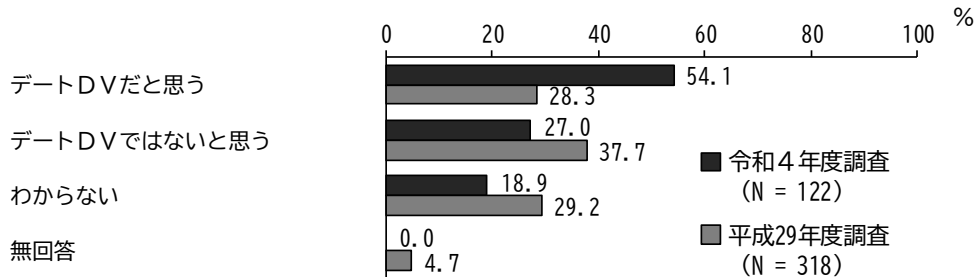
平成29年度調査と比較すると、「デートDVだと思う」の割合が増加しています。一方、「デートDVではないと思う」、「わからない」の割合が減少しています。



⑦常に相手の考えを聞かずに、物事を計画したり決めたりする

「デートDVだと思う」の割合が54.1%と最も高く、次いで「デートDVではないと思う」の割合が27.0%、「わからない」の割合が18.9%となっています。

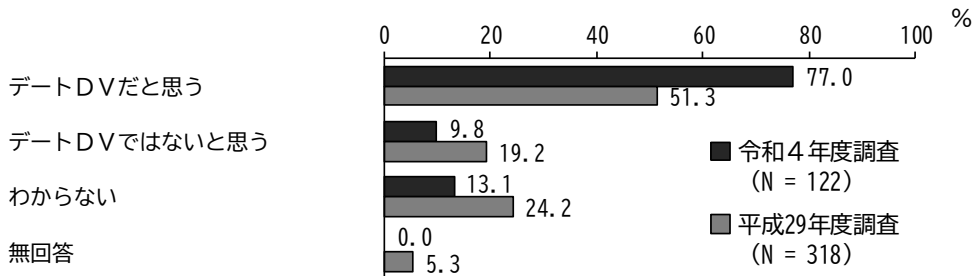
平成29年度調査と比較すると、「デートDVだと思う」の割合が増加しています。一方、「デートDVではないと思う」、「わからない」の割合が減少しています。



⑧デート代をいつもすべて払わせる

「デートDVだと思う」の割合が77.0%と最も高く、次いで「わからない」の割合が13.1%となっています。

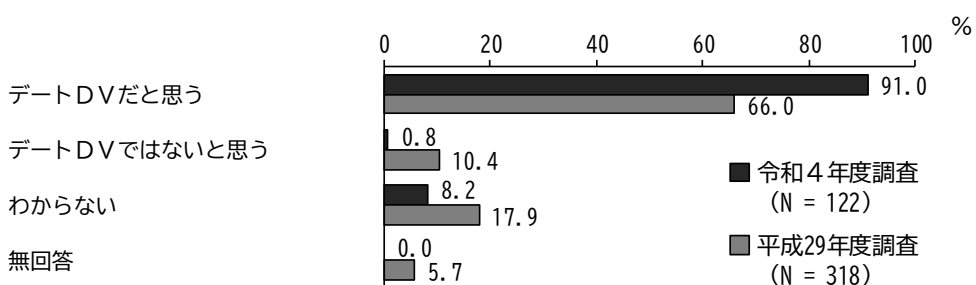
平成29年度調査と比較すると、「デートDVだと思う」の割合が増加しています。一方、「デートDVではないと思う」、「わからない」の割合が減少しています。



⑨家族や友だちとのつきあいや連絡を監視したり、制限する

「デートDVだと思う」の割合が91.0%と最も高くなっています。

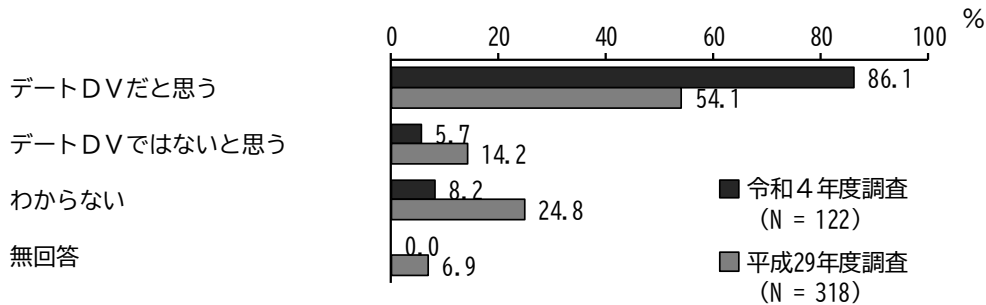
平成29年度調査と比較すると、「デートDVだと思う」の割合が増加しています。一方、「デートDVではないと思う」、「わからない」の割合が減少しています。



⑩いやらしい雑誌や映像を同意なく一方的に見せる

「デートDVだと思う」の割合が86.1%と最も高くなっています。

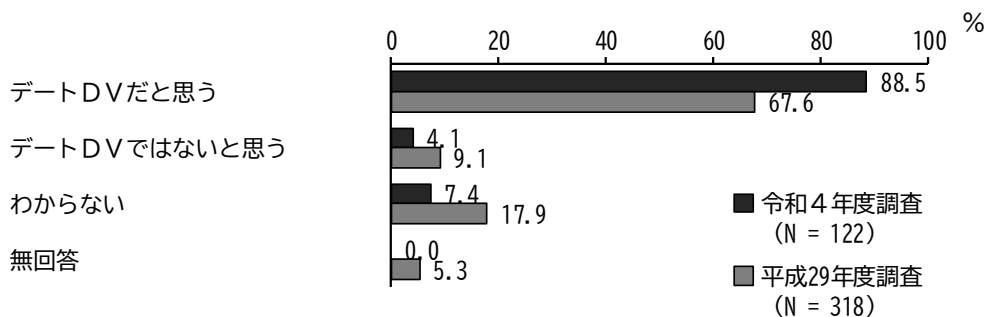
平成29年度調査と比較すると、「デートDVだと思う」の割合が増加しています。一方、「デートDVではないと思う」、「わからない」の割合が減少しています。



⑪キスや性的な行為を同意なく一方的にする

「デートDVだと思う」の割合が88.5%と最も高くなっています。

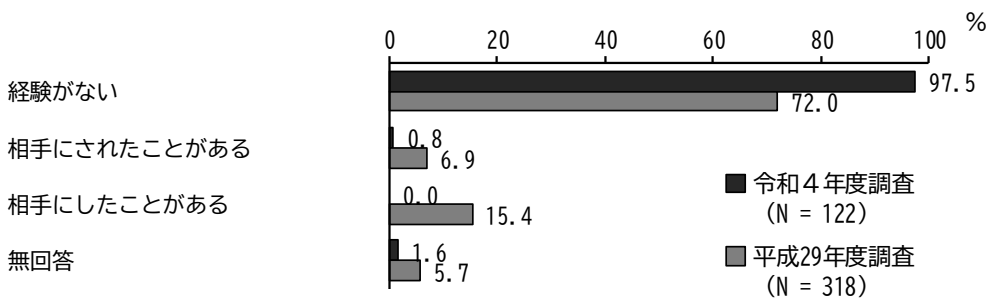
平成29年度調査と比較すると、「デートDVだと思う」の割合が増加しています。一方、「わからない」の割合が減少しています。



⑫性的な画像や動画などを勝手に撮ったりSNSなどに載せたりする

「デートDVだと思う」の割合が95.1%と最も高くなっています。

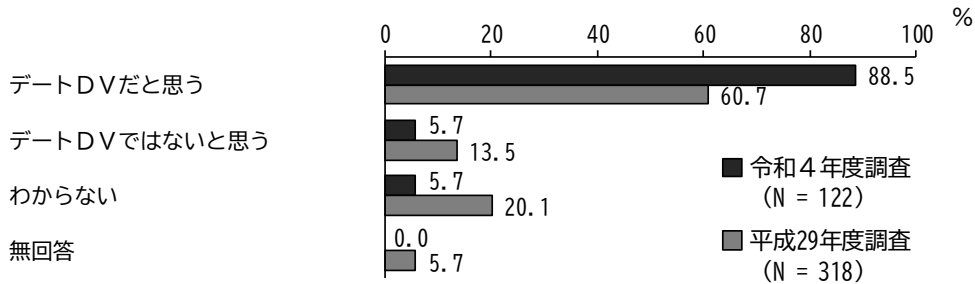
平成29年度調査と比較すると、「デートDVだと思う」の割合が増加しています。一方、「デートDVではないと思う」、「わからない」の割合が減少しています。



⑬ 大声でどなる

「デートDVだと思う」の割合が 88.5%と最も高くなっています。

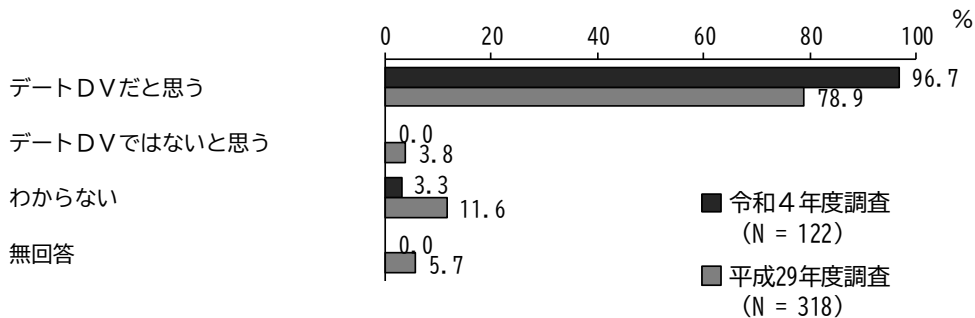
平成 29 年度調査と比較すると、「デートDVだと思う」の割合が増加しています。一方、「デートDVではないと思う」、「わからない」の割合が減少しています。



⑭ なぐるふりをしたり、刃物を突きつけておどす

「デートDVだと思う」の割合が 96.7%と最も高くなっています。

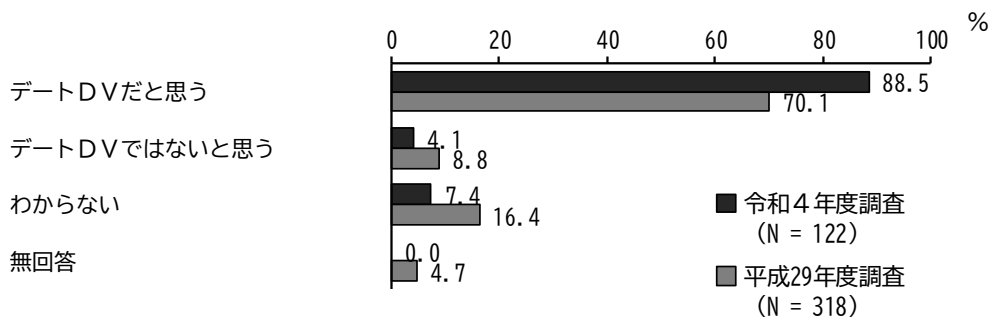
平成 29 年度調査と比較すると、「デートDVだと思う」の割合が増加しています。一方、「わからない」の割合が減少しています。



⑮ 「別れるなら死ぬ」などと言っておどす

「デートDVだと思う」の割合が 88.5%と最も高くなっています。

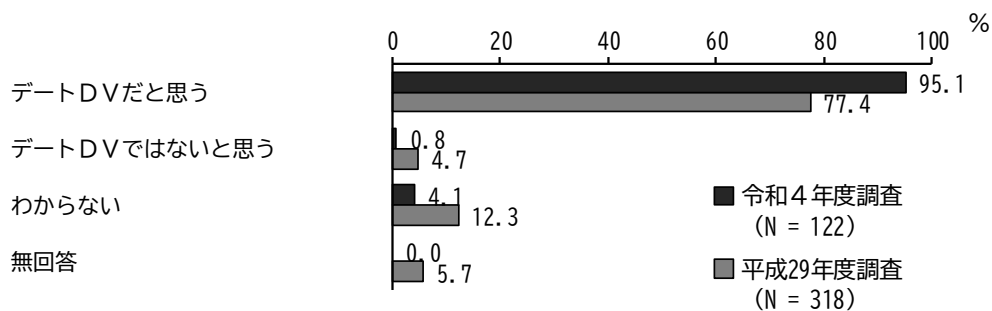
平成 29 年度調査と比較すると、「デートDVだと思う」の割合が増加しています。一方、「わからない」の割合が減少しています。



⑩物をこわしたり、物を投げる

「デートDVだと思う」の割合が95.1%と最も高くなっています。

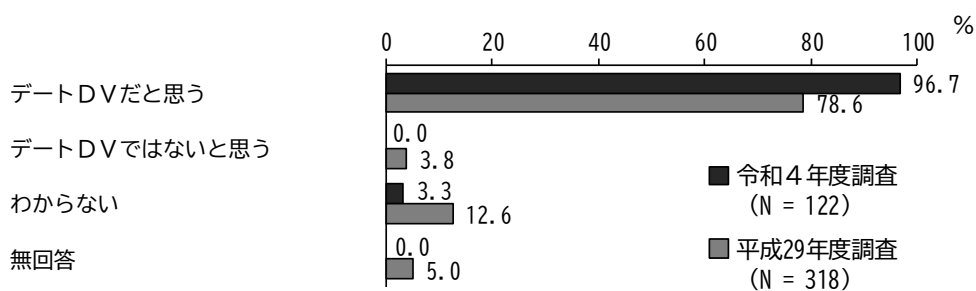
平成29年度調査と比較すると、「デートDVだと思う」の割合が増加しています。一方、「わからない」の割合が減少しています。



⑪なぐる、ける、突きとばす

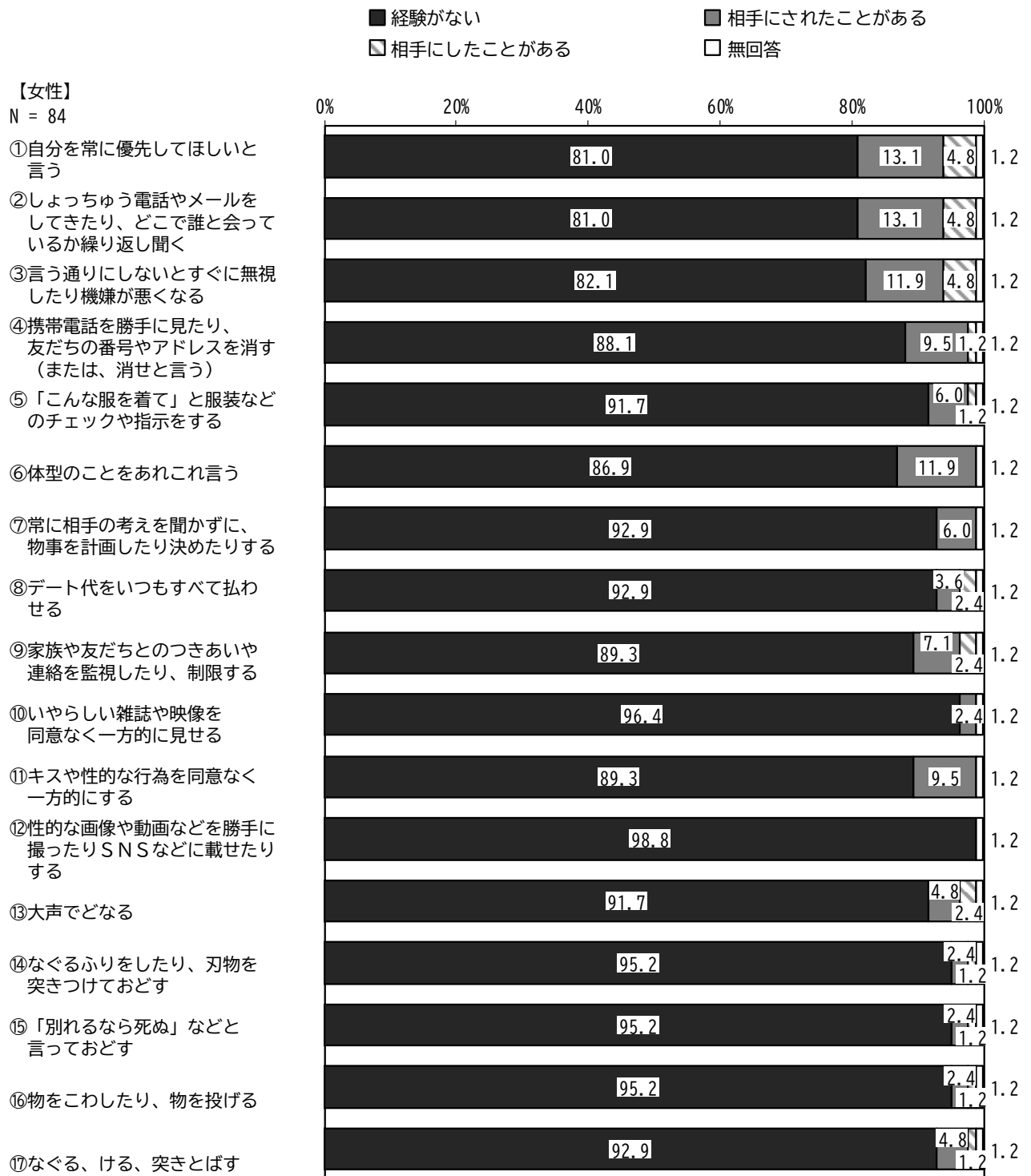
「デートDVだと思う」の割合が96.7%と最も高くなっています。

平成29年度調査と比較すると、「デートDVだと思う」の割合が増加しています。一方、「わからない」の割合が減少しています。

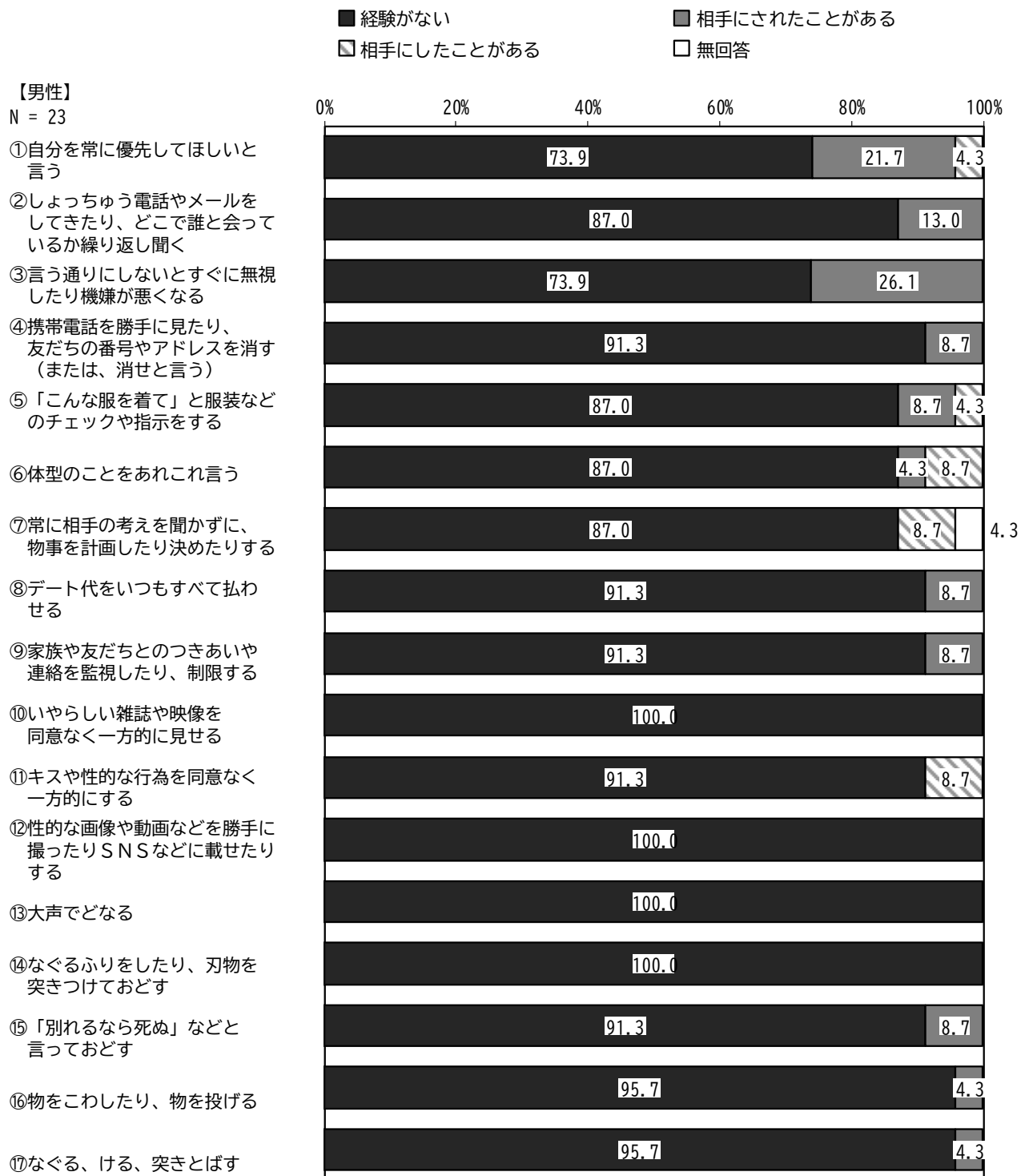


<行為の経験>

女性では『①自分を常に優先してほしいと言う』、『②しょっちゅう電話やメールをしてきたり、どこで誰と会っているか繰り返し聞く』で「相手にされたことがある」の割合が高くなっています。



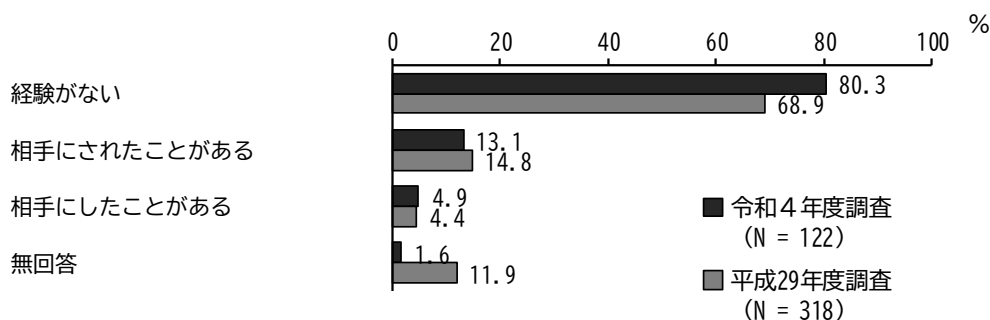
男性では『③言う通りにしないとすぐに無視したり機嫌が悪くなる』で「相手にされたことがある」の割合が高くなっています。



①自分を常に優先してほしいと言う

「経験がない」の割合が80.3%と最も高く、次いで「相手にされたことがある」の割合が13.1%となっています。

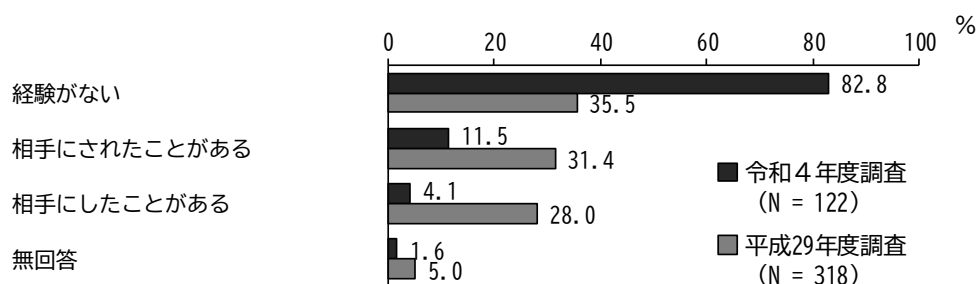
平成29年度調査と比較すると、「経験がない」の割合が増加しています。



②しょっちゅう電話やメールをしてきたり、どこで誰と会っているか繰り返し聞く

「経験がない」の割合が82.8%と最も高く、次いで「相手にされたことがある」の割合が11.5%となっています。

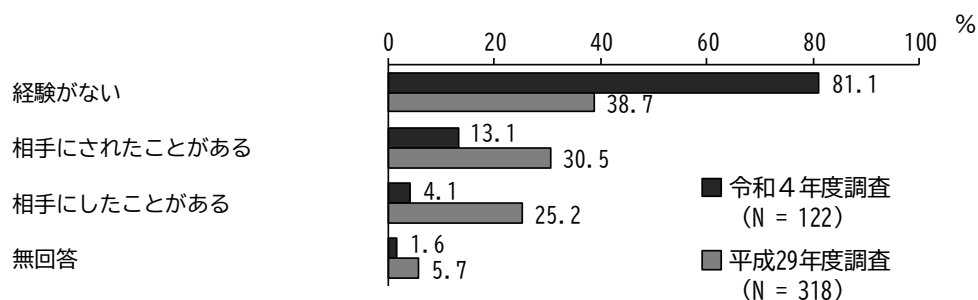
平成29年度調査と比較すると、「経験がない」の割合が増加しています。一方、「相手にされたことがある」、「相手にしたことがある」の割合が減少しています。



③言う通りにしないとすぐに無視したり機嫌が悪くなる

「経験がない」の割合が81.1%と最も高く、次いで「相手にされたことがある」の割合が13.1%となっています。

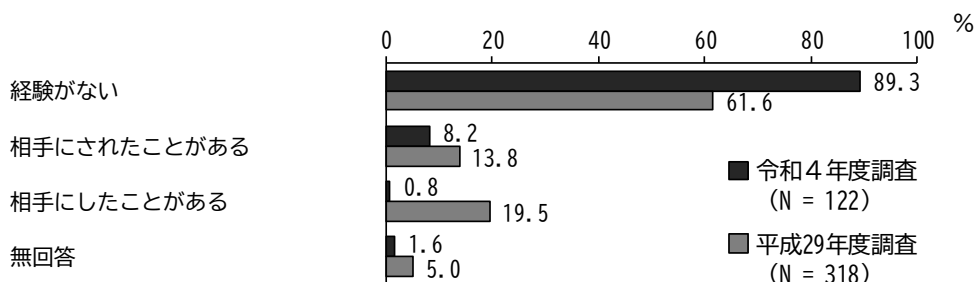
平成29年度調査と比較すると、「経験がない」の割合が増加しています。一方、「相手にされたことがある」、「相手にしたことがある」の割合が減少しています。



④携帯電話を勝手に見たり、友だちの番号やアドレスを消す（または、消せと言う）

「経験がない」の割合が 89.3%と最も高くなっています。

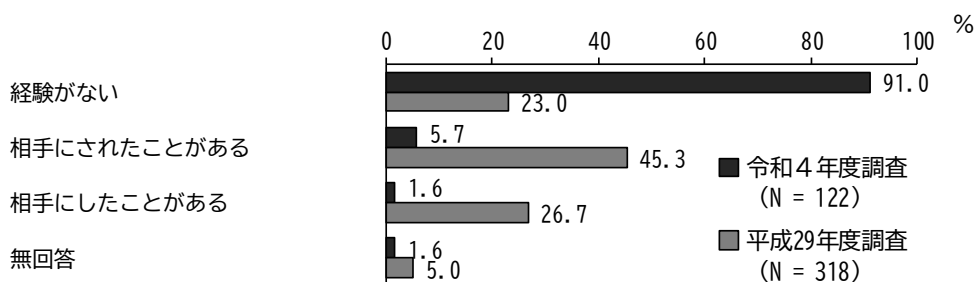
平成 29 年度調査と比較すると、「経験がない」の割合が増加しています。一方、「相手にされたことがある」、「相手にしたことがある」の割合が減少しています。



⑤「こんな服を着て」と服装などのチェックや指示をする

「経験がない」の割合が 91.0%と最も高くなっています。

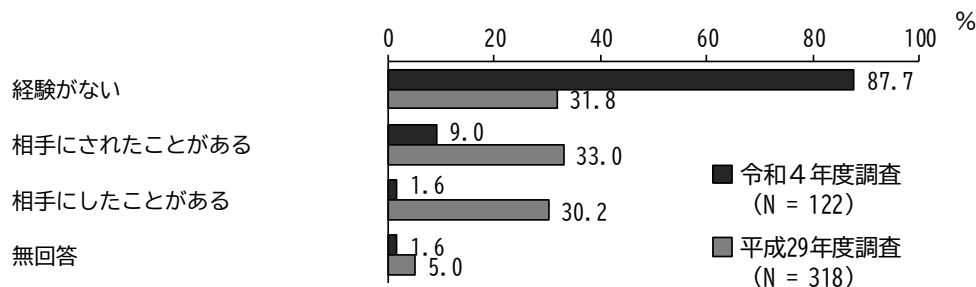
平成 29 年度調査と比較すると、「経験がない」の割合が増加しています。一方、「相手にされたことがある」、「相手にしたことがある」の割合が減少しています。



⑥体型のことをあれこれ言う

「経験がない」の割合が 87.7%と最も高くなっています。

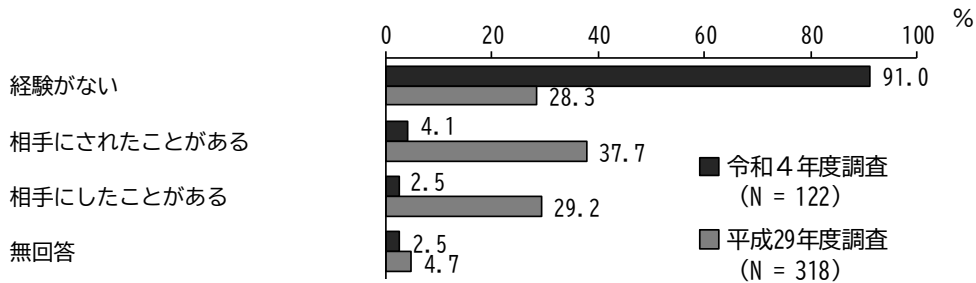
平成 29 年度調査と比較すると、「経験がない」の割合が増加しています。一方、「相手にされたことがある」、「相手にしたことがある」の割合が減少しています。



⑦常に相手の考えを聞かずに、物事を計画したり決めたりする

「経験がない」の割合が91.0%と最も高くなっています。

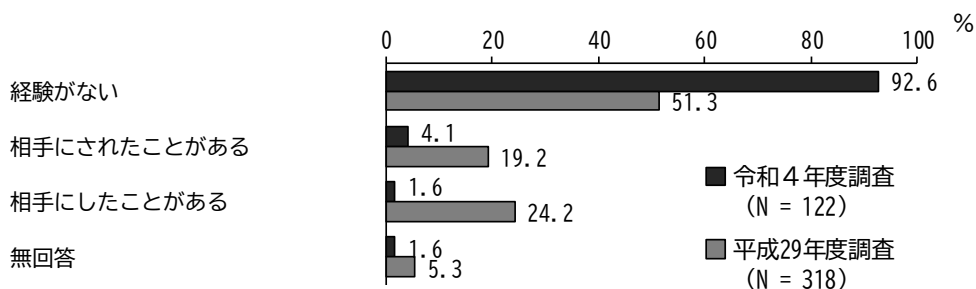
平成29年度調査と比較すると、「経験がない」の割合が増加しています。一方、「相手にされたことがある」、「相手にしたことがある」の割合が減少しています。



⑧デート代をいつもすべて払わせる

「経験がない」の割合が92.6%と最も高くなっています。

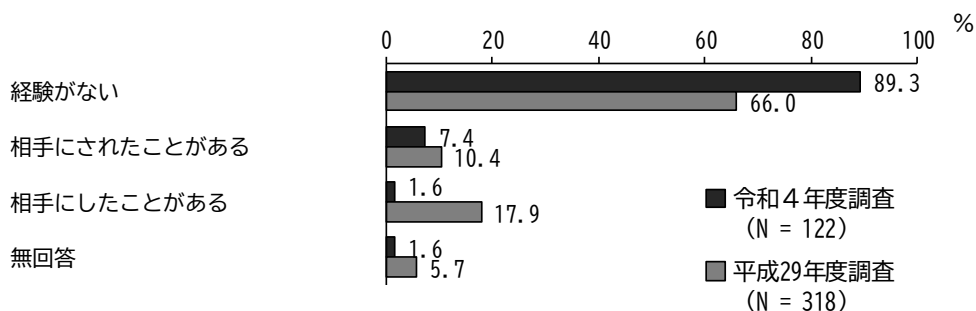
平成29年度調査と比較すると、「経験がない」の割合が増加しています。一方、「相手にされたことがある」、「相手にしたことがある」の割合が減少しています。



⑨家族や友だちとのつきあいや連絡を監視したり、制限する

「経験がない」の割合が89.3%と最も高くなっています。

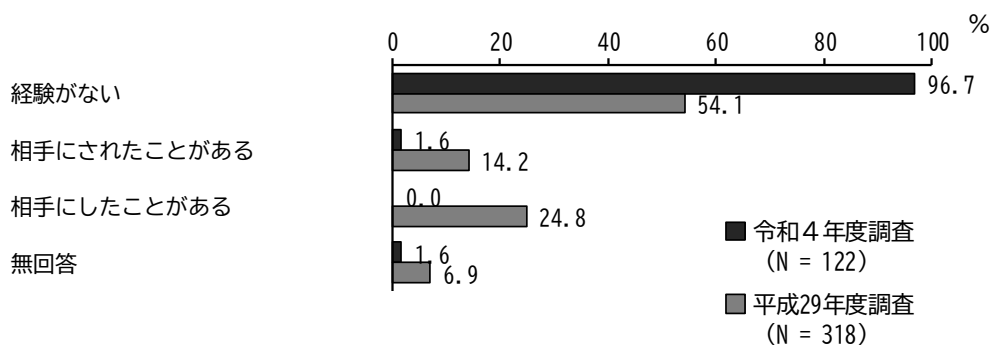
平成29年度調査と比較すると、「経験がない」の割合が増加しています。一方、「相手にしたことがある」の割合が減少しています。



⑩いやらしい雑誌や映像を同意なく一方的に見せる

「経験がない」の割合が96.7%と最も高くなっています。

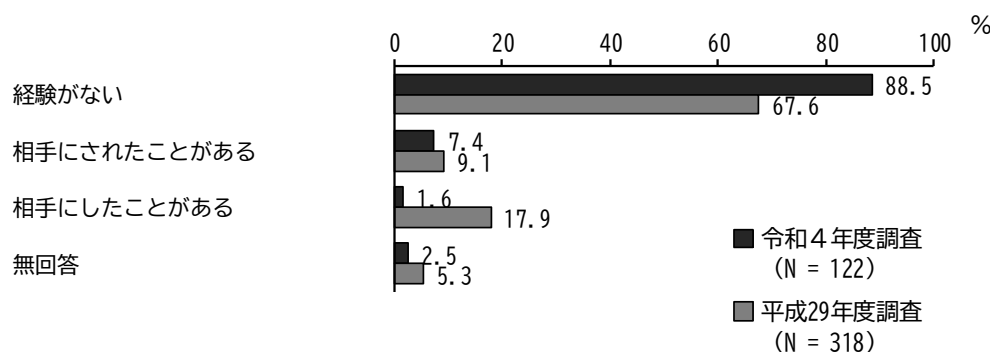
平成29年度調査と比較すると、「経験がない」の割合が増加しています。一方、「相手にされたことがある」、「相手にしたことがある」の割合が減少しています。



⑪キスや性的な行為を同意なく一方的にする

「経験がない」の割合が88.5%と最も高くなっています。

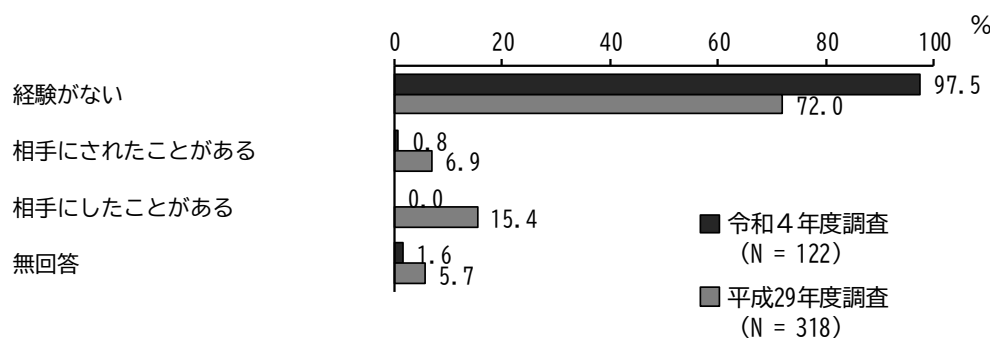
平成29年度調査と比較すると、「経験がない」の割合が増加しています。一方、「相手にしたことがある」の割合が減少しています。



⑫性的な画像や動画などを勝手に撮ったりSNSなどに載せたりする

「経験がない」の割合が97.5%と最も高くなっています。

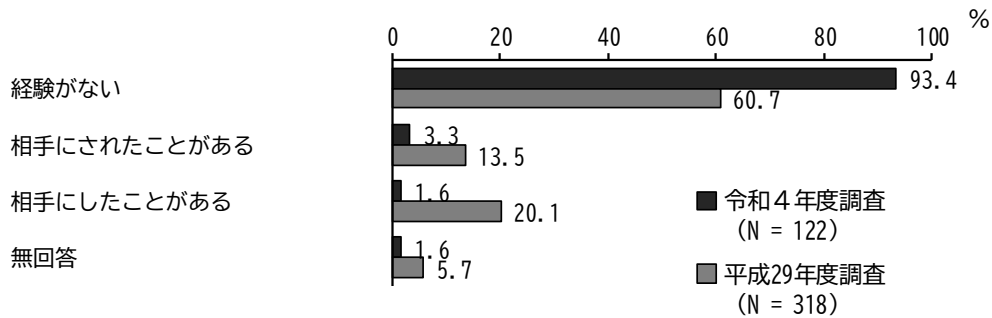
平成29年度調査と比較すると、「経験がない」の割合が増加しています。一方、「相手にされたことがある」、「相手にしたことがある」の割合が減少しています。



⑬大声でどなる

「経験がない」の割合が93.4%と最も高くなっています。

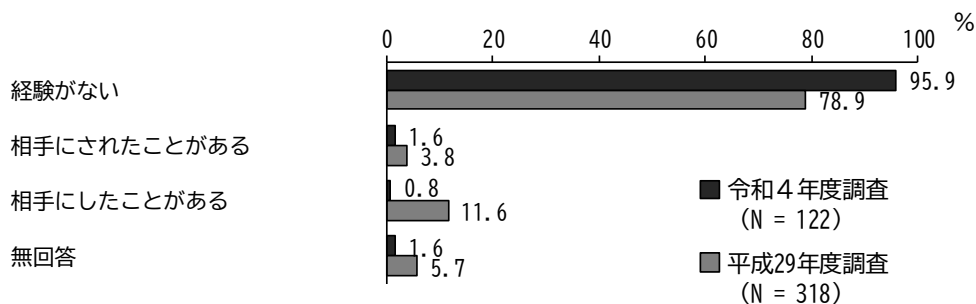
平成29年度調査と比較すると、「経験がない」の割合が増加しています。一方、「相手にされたことがある」、「相手にしたことがある」の割合が減少しています。



⑭なぐるふりをしたり、刃物を突きつけておどす

「経験がない」の割合が95.9%と最も高くなっています。

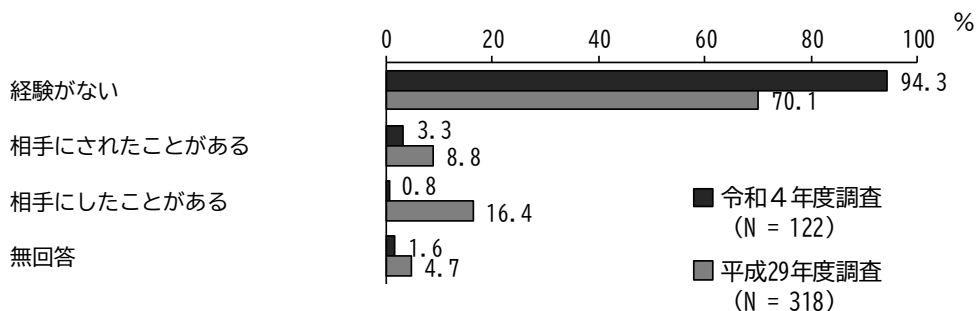
平成29年度調査と比較すると、「経験がない」の割合が増加しています。一方、「相手にしたことがある」の割合が減少しています。



⑮「別れるなら死ぬ」などと言っておどす

「経験がない」の割合が94.3%と最も高くなっています。

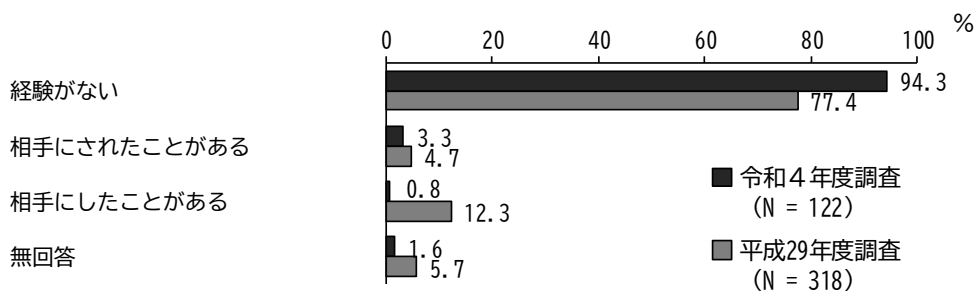
平成29年度調査と比較すると、「経験がない」の割合が増加しています。一方、「相手にされたことがある」、「相手にしたことがある」の割合が減少しています。



⑯物をこわしたり、物を投げる

「経験がない」の割合が 94.3%と最も高くなっています。

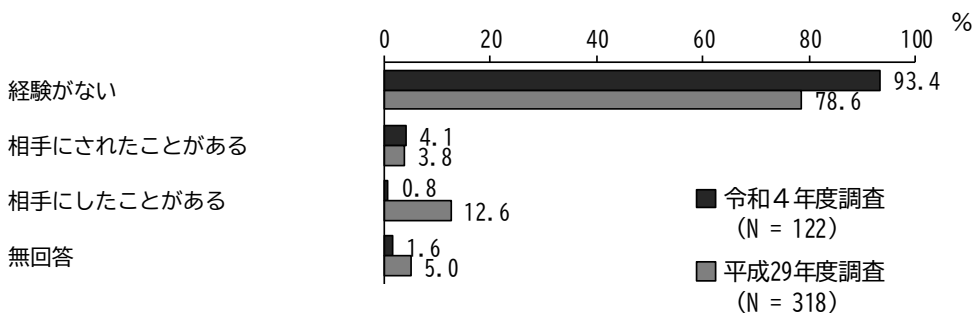
平成 29 年度調査と比較すると、「経験がない」の割合が増加しています。一方、「相手にしたことがある」の割合が減少しています。



⑰なぐる、ける、突きとばす

「経験がない」の割合が 93.4%と最も高くなっています。

平成 29 年度調査と比較すると、「経験がない」の割合が増加しています。一方、「相手にしたことがある」の割合が減少しています。



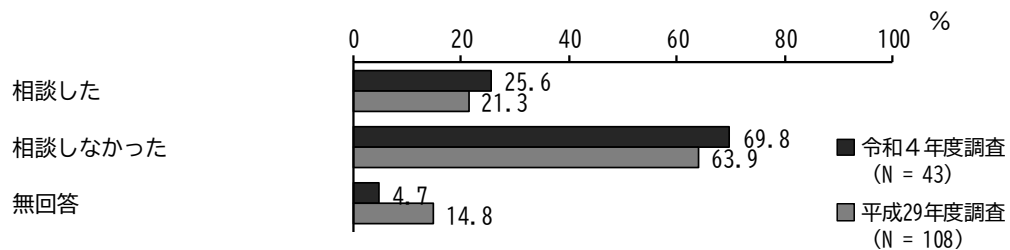
問17 【問16の「行為の経験」で1つでも2.「相手にされたことがある」3.「相手にしたことがある」と答えた人に聞きます。】

それらの行為をしたり、されたりしたそのあと、相談しましたか。(あてはまるもの1つに○)

「相談した」の割合が25.6%、「相談しなかった」の割合が69.8%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「相談しなかった」の割合が増加しています。

【経年】



【性別】

性別で見ると、女性では「相談した」の割合が高く、男性では「相談しなかった」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	N (件)	相談した	相談しなかった	無回答
全体	43	25.6	69.8	4.7
女性	29	34.5	58.6	6.9
男性	10	10.0	90.0	—

問17-① 【問17で「1.相談した」と答えた人に聞きます。】

それは誰(どこ)に相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

「友人、知人、近所の人」の割合が100.0%と最も高く、次いで「親、祖父母、兄弟姉妹、親戚、いとこ」の割合が18.2%となっています。

単位：%

区分	N (件)	親、祖父母、兄弟姉妹、親戚、いとこ	友人、知人、近所の人	学校関係者	医療関係者(医師・看護師など)	民間のカウンセラー・カウンセリング機関	市役所の相談窓口	大阪府中央子ども家庭センター	大阪府女性相談センター	法務局、人権擁護委員	その他の相談機関	無回答
全体	11	18.2	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—
女性	10	20.0	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—
男性	1	—	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—

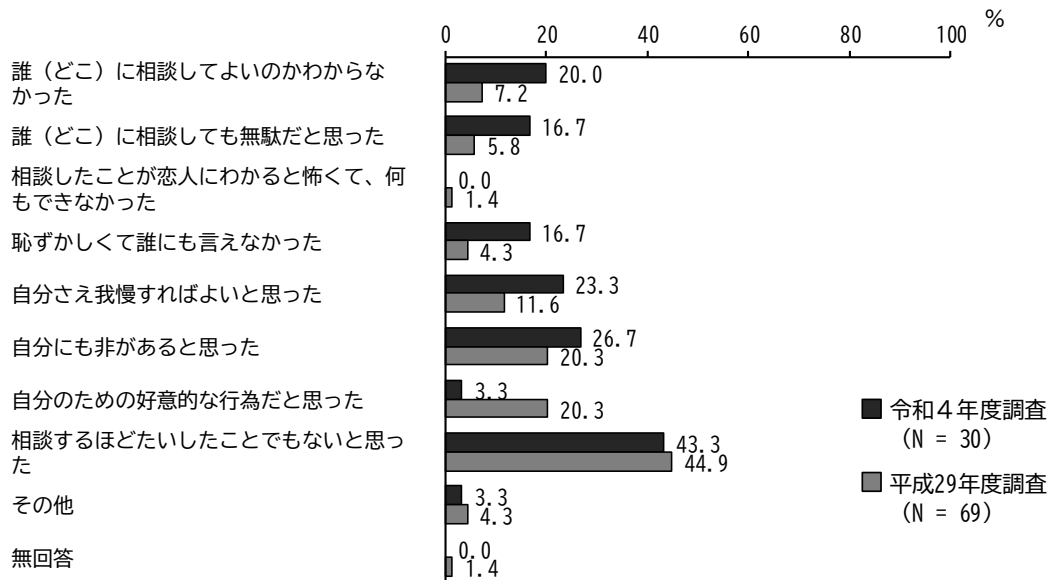
問17-② 【問17で2.「相談しなかった」と答えた人に聞きます。】

それはなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

「相談するほどたいしたことでもないと思った」の割合が43.3%と最も高く、次いで「自分にも非があると思った」の割合が26.7%、「自分さえ我慢すればよいと思った」の割合が23.3%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「誰(どこ)に相談してよいのかわからなかった」、「誰(どこ)に相談しても無駄だと思った」、「恥ずかしくて誰にも言えなかった」、「自分さえ我慢すればよいと思った」、「自分にも非があると思った」の割合が増加しています。一方、「自分のための好意的な行為だと思った」の割合が減少しています。

【経年】



【性別】

性別で見ると、男性に比べ女性で「誰(どこ)に相談しても無駄だと思った」、「恥ずかしくて誰にも言えなかった」、「自分さえ我慢すればよいと思った」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	N (件)	誰(どこ)に相談してよいのかわからなかった	誰(どこ)に相談しても無駄だと思った	相談したことが恋人にわかると怖くて、何もできなかった	恥ずかしくて誰にも言えなかった	自分さえ我慢すればよいと思った	自分にも非があると思った	自分のための好意的な行為だと思った	相談するほどたいしたことでもないと思った	その他	無回答
全体	30	20.0	16.7	-	16.7	23.3	26.7	3.3	43.3	3.3	-
女性	17	17.6	29.4	-	29.4	35.3	29.4	-	41.2	-	-
男性	9	11.1	-	-	-	-	22.2	11.1	55.6	11.1	-

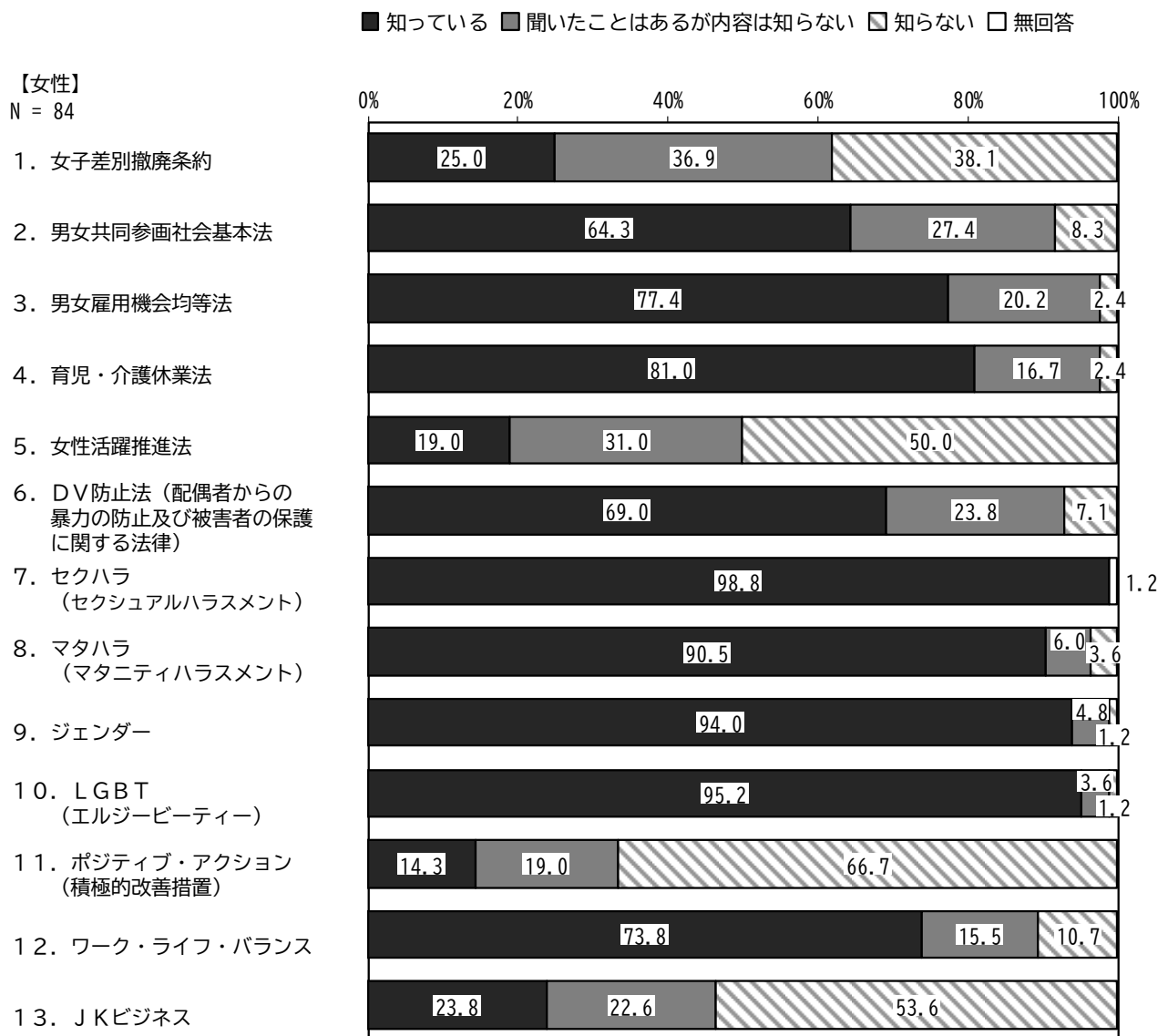
大学生 問17-② その他回答

特に何も考えなかった

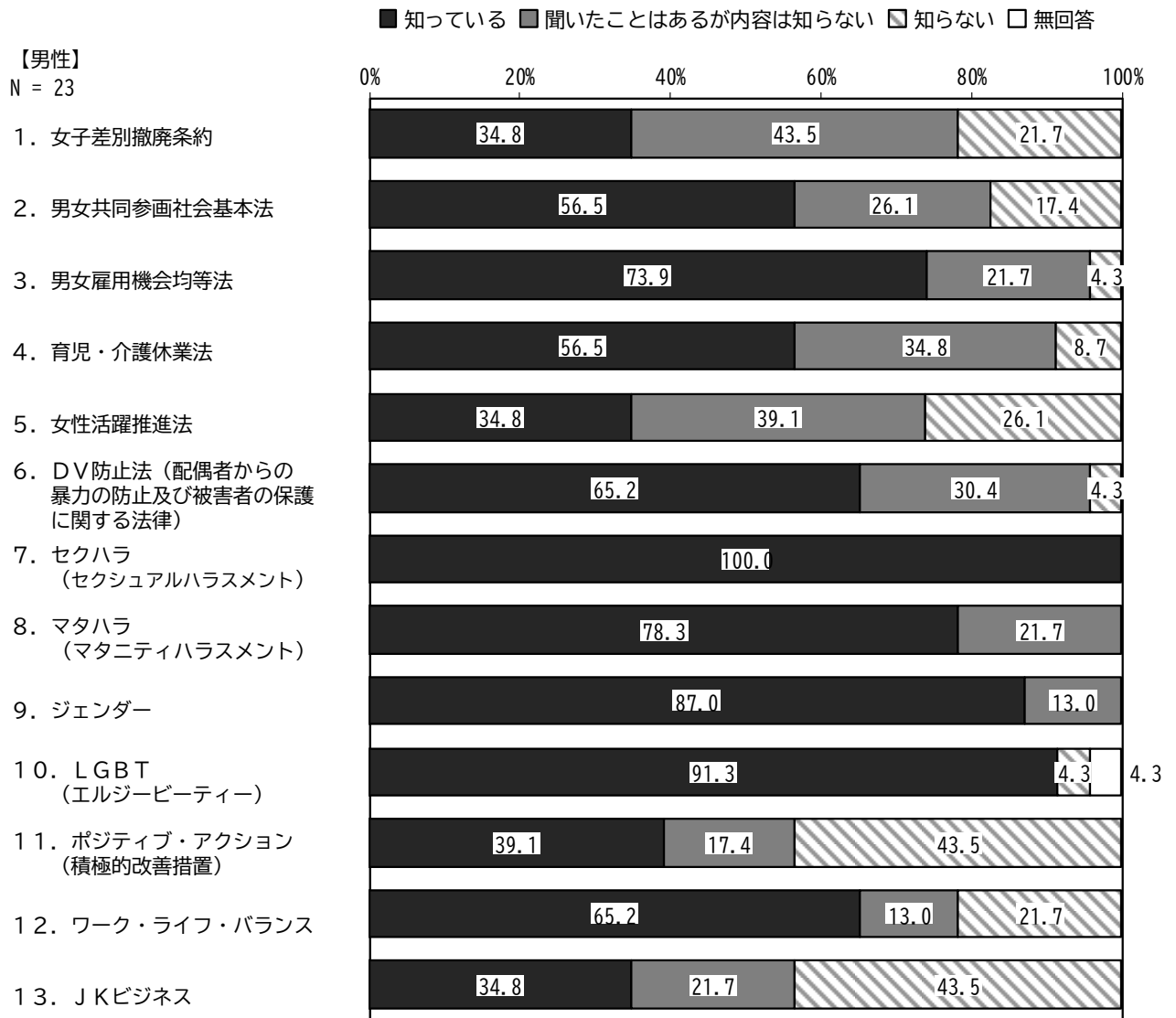
4 用語について

問18 あなたは、次の言葉について知っていますか（それぞれについて○は1つずつ）

女性では『7. セクハラ（セクシュアルハラスメント）』、『9. ジェンダー』、『10. LGBT（エルジービーティー）』で「知っている」の割合が高くなっています。また、『5. 女性活躍推進法』、『11. ポジティブ・アクション（積極的改善措置）』、『13. JKビジネス』で「知らない」の割合が高くなっています。



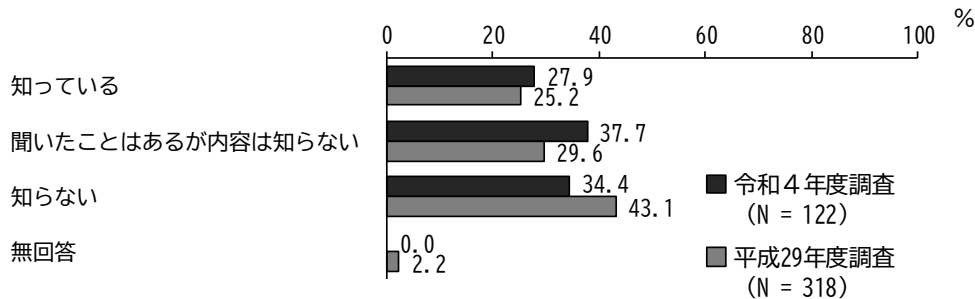
男性では『7. セクハラ (セクシュアルハラスメント)』、『9. ジェンダー』、『10. LGBT (エルジービィー)』で「知っている」の割合が高くなっています。また、『11. ポジティブ・アクション (積極的改善措置)』、『13. JKビジネス』で「知らない」の割合が高くなっています。



1. 女子差別撤廃条約

「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が37.7%と最も高く、次いで「知らない」の割合が34.4%、「知っている」の割合が27.9%となっています。

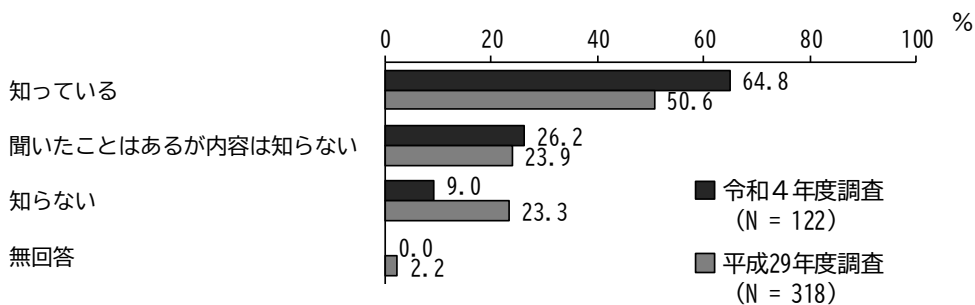
平成29年度調査と比較すると、「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が増加しています。一方、「知らない」の割合が減少しています。



2. 男女共同参画社会基本法

「知っている」の割合が64.8%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が26.2%となっています。

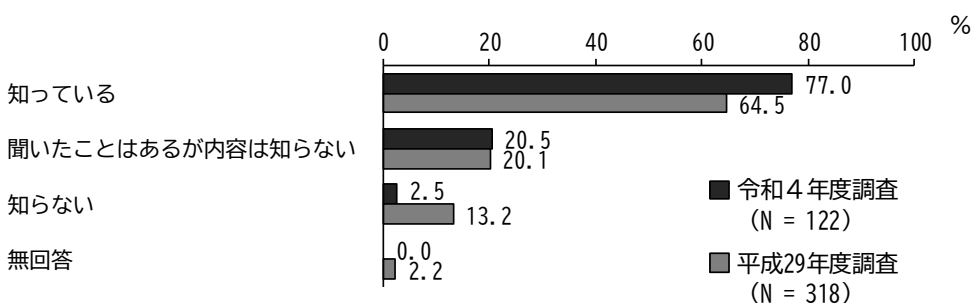
平成29年度調査と比較すると、「知っている」の割合が増加しています。一方、「知らない」の割合が減少しています。



3. 男女雇用機会均等法

「知っている」の割合が77.0%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が20.5%となっています。

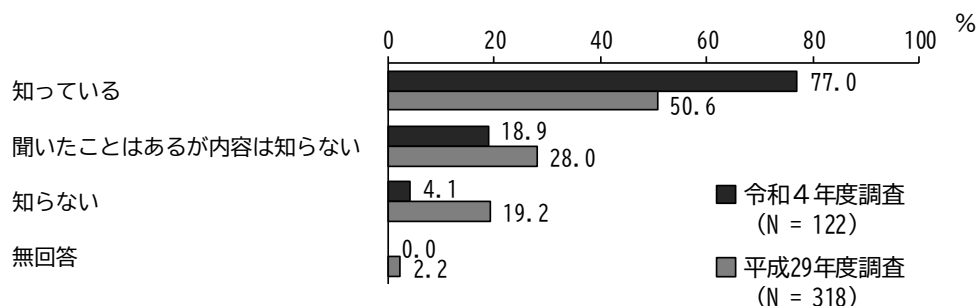
平成29年度調査と比較すると、「知っている」の割合が増加しています。一方、「知らない」の割合が減少しています。



4. 育児・介護休業法

「知っている」の割合が77.0%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が18.9%となっています。

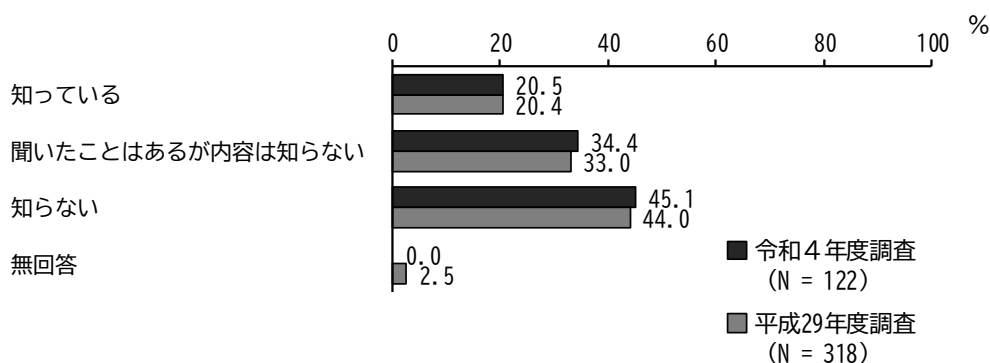
平成29年度調査と比較すると、「知っている」の割合が増加しています。一方、「聞いたことはあるが内容は知らない」、「知らない」の割合が減少しています。



5. 女性活躍推進法

「知らない」の割合が45.1%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が34.4%、「知っている」の割合が20.5%となっています。

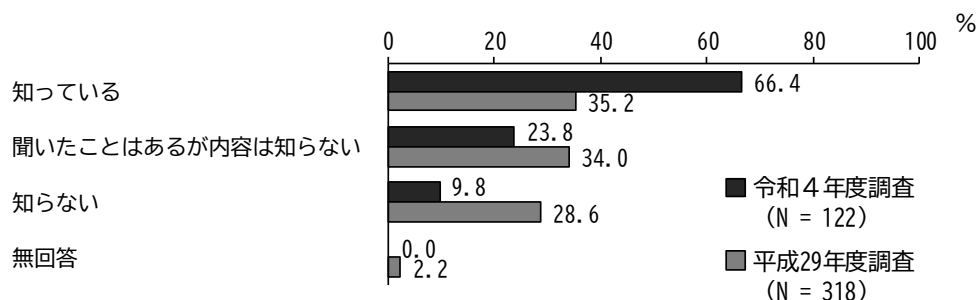
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



6. DV防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律）

「知っている」の割合が66.4%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が23.8%となっています。

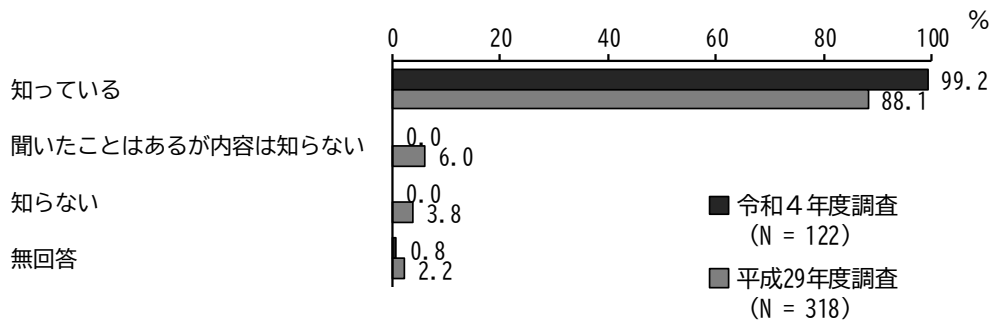
平成29年度調査と比較すると、「知っている」の割合が増加しています。一方、「聞いたことはあるが内容は知らない」、「知らない」の割合が減少しています。



7. セクハラ（セクシュアル ハラスメント）

「知っている」の割合が99.2%と最も高くなっています。

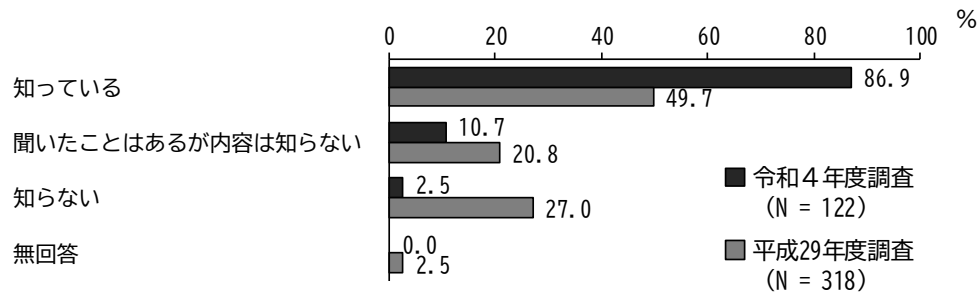
平成29年度調査と比較すると、「知っている」の割合が増加しています。一方、「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が減少しています。



8. マタハラ（マタニティ ハラスメント）

「知っている」の割合が86.9%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が10.7%となっています。

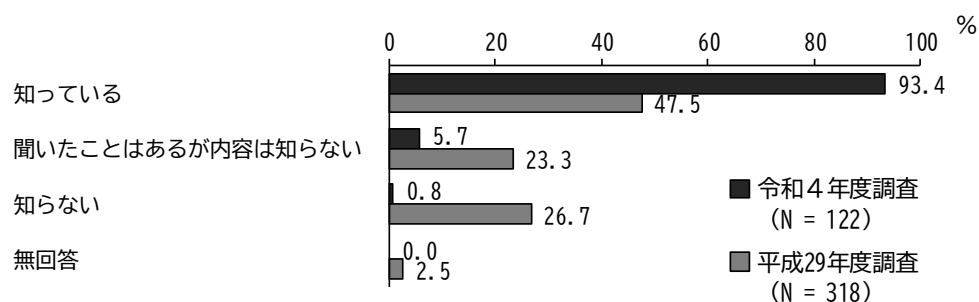
平成29年度調査と比較すると、「知っている」の割合が増加しています。一方、「聞いたことはあるが内容は知らない」、「知らない」の割合が減少しています。



9. ジェンダー

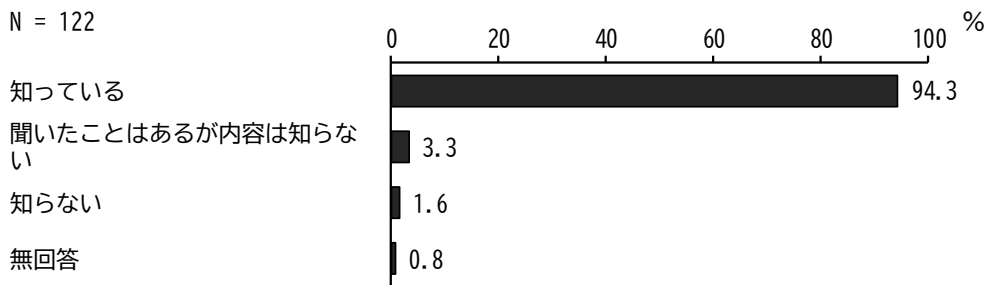
「知っている」の割合が93.4%と最も高くなっています。

平成29年度調査と比較すると、「知っている」の割合が増加しています。一方、「聞いたことはあるが内容は知らない」、「知らない」の割合が減少しています。



10. LGBT（エルジービーティー）

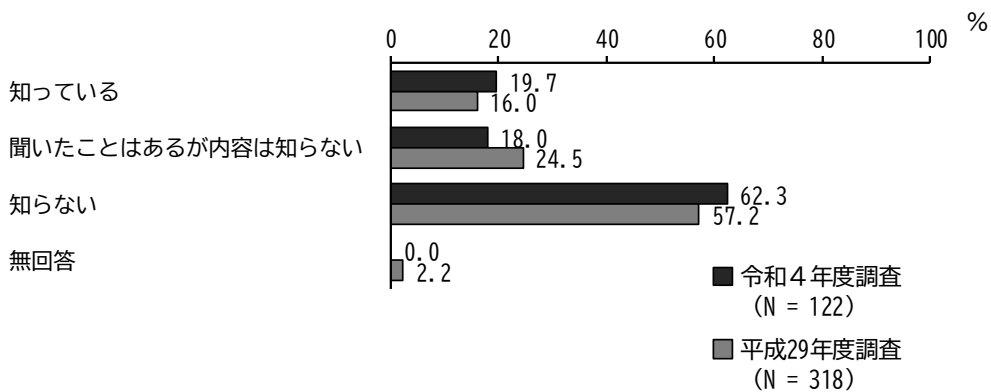
「知っている」の割合が94.3%と最も高くなっています。



11. ポジティブ・アクション（積極的改善措置）

「知らない」の割合が62.3%と最も高く、次いで「知っている」の割合が19.7%、「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が18.0%となっています。

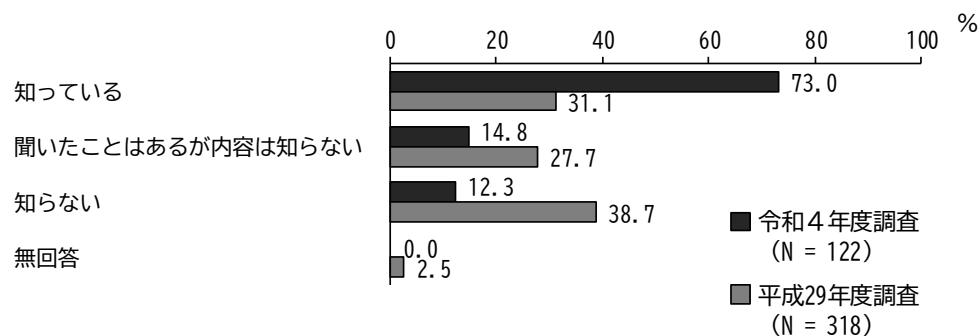
平成29年度調査と比較すると、「知らない」の割合が増加しています。一方、「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が減少しています。



12. ワーク・ライフ・バランス

「知っている」の割合が73.0%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が14.8%、「知らない」の割合が12.3%となっています。

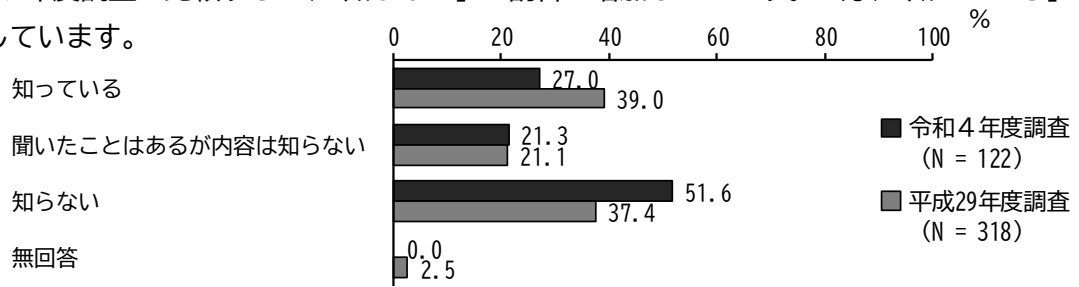
平成29年度調査と比較すると、「知っている」の割合が増加しています。一方、「聞いたことはあるが内容は知らない」、「知らない」の割合が減少しています。



13. JKビジネス

「知らない」の割合が51.6%と最も高く、次いで「知っている」の割合が27.0%、「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が21.3%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「知らない」の割合が増加しています。一方、「知っている」の割合が減少しています。

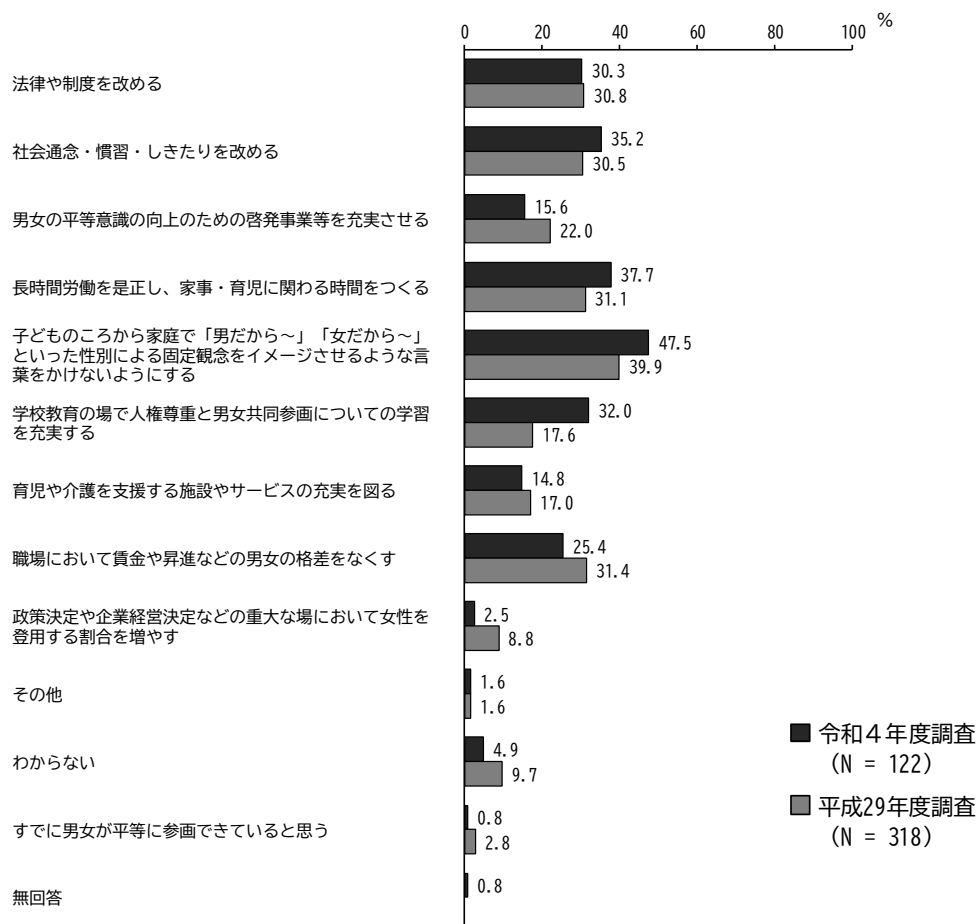


5 行政への要望について

問19 今後、社会のあらゆる分野で男女共同参画を推進するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

「子どものころから家庭で「男だから～」「女だから～」といった性別による固定観念をイメージさせるような言葉をかけないようにする」の割合が47.5%と最も高く、次いで「長時間労働を是正し、家事・育児に関わる時間をつくる」の割合が37.7%、「社会通念・慣習・しきたりを改める」の割合が35.2%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「長時間労働を是正し、家事・育児に関わる時間をつくる」、「子どものころから家庭で「男だから～」「女だから～」といった性別による固定観念をイメージさせるような言葉をかけないようにする」、「学校教育の場で人権尊重と男女共同参画についての学習を充実する」の割合が増加しています。



【性別】

性別で見ると、女性で「職場において賃金や昇進などの男女の格差をなくす」、男性で「学校教育の場で人権尊重と男女共同参画についての学習を充実する」、「男女の平等意識の向上のための啓発事業等を充実させる」の割合が高くなっています。

区分	N (件)	法律や制度を改める	社会通念・慣習・しきたりを改める	男女の平等意識の向上のための啓発事業等を充実させる	長時間労働を是正し、家事・育児に関わる時間をつくる	子どものころから家庭で「男だから」「女だから」といった性別による固定観念をイメージさせるような言葉をかけないようにする	学校教育の場で人権尊重と男女共同参画についての学習を充実する
全体	122	30.3	35.2	15.6	37.7	47.5	32.0
女性	84	27.4	35.7	11.9	39.3	44.0	31.0
男性	23	34.8	34.8	21.7	43.5	52.2	43.5

区分	育児や介護を支援する施設やサービスの充実を図る	職場において賃金や昇進などの男女の格差をなくす	政策決定や企業経営決定などの重大な場において女性を登用する割合を増やす	その他	わからない	すでに男女が平等に参画できていると思う	無回答
全体	14.8	25.4	2.5	1.6	4.9	0.8	0.8
女性	16.7	32.1	1.2	1.2	6.0	—	1.2
男性	4.3	8.7	4.3	4.3	4.3	4.3	—

大学生 問 19 その他回答

女性の法律ができること自体ありえない。みんな平等なのに女性が下に見られることが許せない。こんなアンケートが無くなればいいのと思う。なぜ男が先なのか。

現在、立場の高い人の思考が偏っているので男女平等の教育がされている人が上に立つまでは難しい

6 自由記入

これから社会に出ていくことで、みなさんはさまざまな体験をしてライフステージの変化に直面していくと思います。そこで以下の体験についてみなさんが男性として、または女性として「期待していること」「不安に感じること」はなんですか。

大学生 【就職】 その他回答
男女平等の観念が薄い人（特に上司）などに罵声を言われたり、役職を貰えないのは絶対に嫌です。
ハラスメント。
誰でもできる仕事と言われるのがつらい。期待してますよと声掛けをしないでほしい。自分なりのやり方と就職先のやり方を照らし合わせて自分の意見を進んで言える環境がほしい。
女性でも部長等の役職に付けることを期待している
性別に関係なく個人の能力を尊重できる考え方に期待します。
労働に見合った収入
履歴書や学歴書を作らず、その人の人柄など外面的に見るだけでなく内面的も見る。
育休はとりやすいと思う
人間関係

その他6件

大学生 【結婚】 その他回答
家事の役割配分などの男女差で相手側の両親に文句を言われること。
自分が好きな人と好きな形で結婚できたら良いと思います
もし年齢を重ねても結婚できなかった時周りからの圧力とか怖いかもしれないです。
昔のやり方とか押し付けないでほしい。時代は巡るかもしれないけど、勝手に物事を決めないで、と思う。
期待→子供の誕生 不安→嫁姑問題
結婚するとして夫の苗字になりたくない、自分の姓のままでいたいけど周りの理解がどれだけあるかが怖い
ずっと実家暮らしで、2人で上手く生活できるのかという不安を感じる、
不安:名字が変わること。 ⇒手続きが大変。慣れるのに時間がかかりそう。知り合いに報告しなければならない。
出会いがあるか
結婚相手は自分で決める
結婚相手を探すのが大変

その他4件

大学生 【出産・育児】 その他回答
扶養手当やもらえる支給額があがればいいなと期待してます。また、大学生までの手当（もちろん給付）があればアルバイトに追われることなく学業に集中できます。ワーキングプアをなくしてほしい。
期待→自分たちの子どもを育てる 不安→仕事を休めるのか、夫が家事などを手伝ってくれるのか、再就職できるのか
出産・育児に対して子供の責任を負うことが怖いのに、さらに母親だから頑張れって言う期待まで背負わされるのが怖い。夫の協力も得られず、男女の差を感じるのが不安
女性だけでなく男性も育休を取りやすい環境
将来病院で働きたいと思っていますが、以前出産に関して、先輩から順番にと暗黙の了解があるところも存在すると聞いたことがあり、自分のタイミングで産めないのは嫌だなと思った記憶があります。全部の病院がそうではないと思いますが、女性が自分の人生を考えて自分のタイミングで結婚・出産ができる環境で働きたいと思っています。
男性も育児に協力してくれるかという不安
現在は、以前に比べ父親も育児をするということが当たり前感覚に近づいていると感じている。
どの職種でも男女平等に休むことができること
育児休暇の推進とその期間中の給料の扱いについて考えが深まる。または、周知されるようになることを期待します。
急な休暇を取ることが出来るか
子育てに困らない社会
お金がかかる
出産・育児で仕事を休む際、戻りやすい環境がどんな職場でも整っていること。また、子持ちの親も働きやすい設備があることが当たり前になること。
子どもができてもお金の問題でその子がしたいことをさせてあげられないのではないかと不安に思う。また、正しく生きなければならないと言う風潮が強いのでしんどい思いをするのではないかととも思う。

その他7件